第１回　生活の質に関する調査結果（検討用資料）

平成 24 年 4 月 27 日
内閣府経済社会総合研究所
幸福度研究ユニット

目次

１．調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
２．調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（１）主観的幸福度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
①現在の幸福感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
②家族の幸福感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
③理想の幸福感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
④将来の幸福感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
⑤生活満足度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
⑥協調的幸福感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
⑦過去数週間の感情経験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（２）様々な主観的指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
⑧生活の局面別の満足度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
⑨生活費のやりくりの困難さ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
⑩住居費負担・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
⑪近隣の施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
⑫不安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
⑬夜の治安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
⑭身の周りから受ける援助への期待・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
⑮自己申告の健康状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
⑯世帯における地位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
⑰世帯人数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
⑱子どもの数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
⑲社会的接触頻度（直接会う場合）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
⑳社会的接触頻度（電話、郵便、メールなど）・・・・・・・・・・・・・・ 30
㉑困難時に助けてくれる人の数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
㉒介護等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
㉓介護等の負担感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
㉔学歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
㉕社会保障給付・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
（３）被災地、被災地以外の集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
㉖現在の幸福感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
㉗不安感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

別紙　単純集計値と乗率集計値の違いについて・・・・・・・・・・・・・・・・40

１　調査の概要

（１）調査目的

主観的幸福度など国民の生活の質の評価や感情、及びそれを支える要因等を継続的に調査し、明らかにすること。

（２）調査項目

①主観的幸福感、②協調的幸福感、③生活満足度、④感情経験バランス、⑤生活局面での満足度、⑥主観的評価による経済状況、⑦住環境、⑧不安、⑨治安、⑩周囲からのサポート、⑪主観的健康、⑫社会的接触頻度等。

（３）調査概要

①調査対象：施設等の世帯で 15 歳以上の者及び全国の世帯で 15 歳以上の者
②調査客体：調査客体は内閣府が定める方法（市区町村、調査単位区、世帯（個人）の層化３段抽出法）により選ばれた世帯
③調査客体数：10,440 人（1,000 人（被災地[1]）＋9,440 人（被災地以外））
④調査の範囲：全国 337 市町村（522 単位区）。
⑤抽出台帳：住民基本台帳等

（４）調査時期

平成 24 年 3 月 1 日～3 月 16 日

（５）調査方法

調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法。

（６）調査実施機関：社団法人新情報センター

[1] 東京都を除く東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震にかかる災害救助法適用地域。

（７）回収結果

回収率：61.8% (=6451/10440)

被災地及び被災地以外における回収率

	回収数	配布数	回収率
被災地以外	5,824	9,440	61.7%
被災地	627	1,000	62.7%

性・年齢別回収数

	回収数		国勢調査結果における性年齢層比率から想定されるサンプル数*	
	男性	女性	男性	女性
10 代	143	173	182	173
20 代	272	304	407	396
30 代	435	409	536	524
40 代	483	551	493	488
50 代	502	515	474	480
60 代	643	673	517	550
70 以上	556	792	500	730
総数	3034	3417	3109	3342

（*回収総数に対して、2010 年国勢調査における性年齢別の構成比をかけた数）

２　調査結果の概要

（１）主観的幸福度

①現在の幸福感

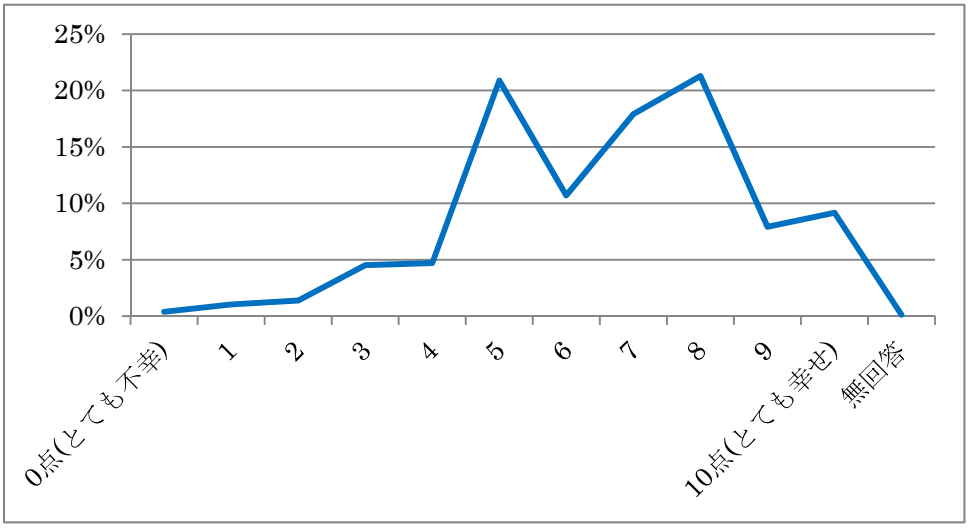
０点を「とても不幸せ」、10 点を「とても幸せ」とする 0 点から 10 点のスケールで現在の幸福感を聞いたところ、平均で 6.6 であった。平成 23 年 3 月、同 22 年 3 月に実施された国民生活選好度調査における同じ問の平均 6.5 と比較し、ほぼ同様の結果となっている（表 1）。

表 1　他の調査との現在の幸福感の比較

調査（調査時点）	現在の幸福感の平均値
今回（平成 24 年 3 月）	6.6
国民生活選好度調査（平成 23 年 3 月）	6.5
国民生活選好度調査（平成 22 年 3 月）	6.5

分布をみると、5 と 8 の二つにピークがあり（図 1）、これまでの我が国の幸福感に関する調査結果と同様の結果となっている。

図 1　現在の幸福感の分布



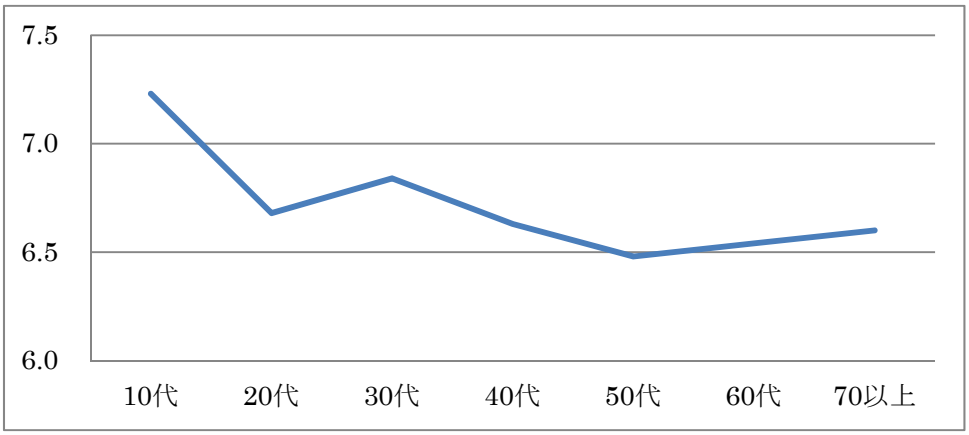
男女別には男性が 6.3、女性が 6.9 と女性の方が高い（表 2）。

表 2　男女別の現在の幸福感　平均点

	平均	標準偏差	回答者数
男性	6.3	2.1	3029
女性	6.9	2.0	3413
総合	6.6	2.1	6442

年齢別には、10 代から 20 代にかけて低下し、30 代で上昇するものの、再び低下し、50 代を底に回復するという W 字形となっている。(図 2)。

図 2　年齢別の現在の幸福感



婚姻状態別に年齢別の幸福感の推移をみると、有配偶者の現在の幸福感は、30 代から 40 代にかけて段差があるが、それ以外は安定している。一方、未婚者の現在の幸福感は、30 代にかけて大きく低下し、その後 70 代で上昇するという U 字形となっている。離婚は 40 代を除くと未婚よりさらに低い。死別は、未婚、離婚よりは高いが、有配偶に比べると低い（図 3)。30 代にかけて全体の幸福度が上昇する背景には、有配偶者の比率の上昇が大きく影響していると考えられる（図 4)。

図 3　配偶者の有無別の現在の幸福感

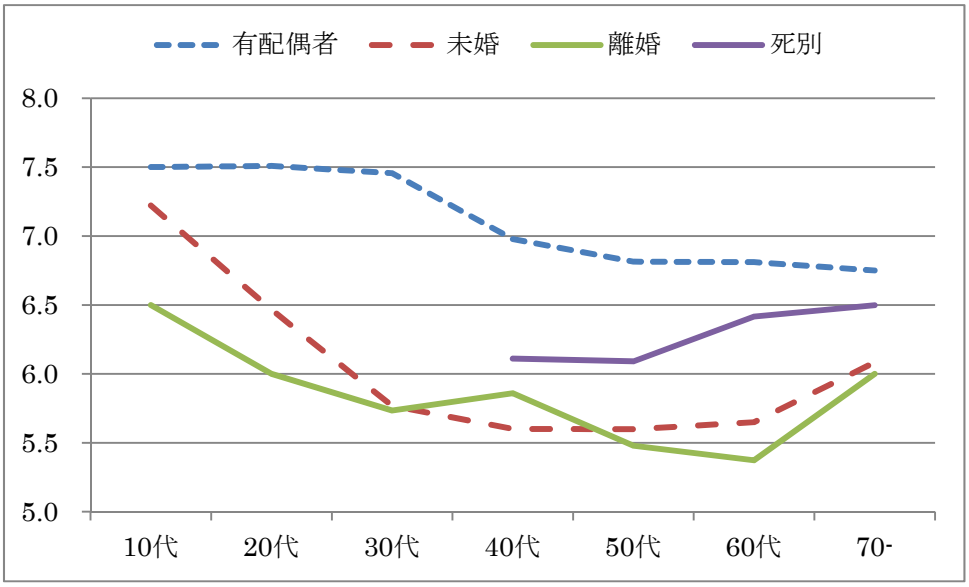
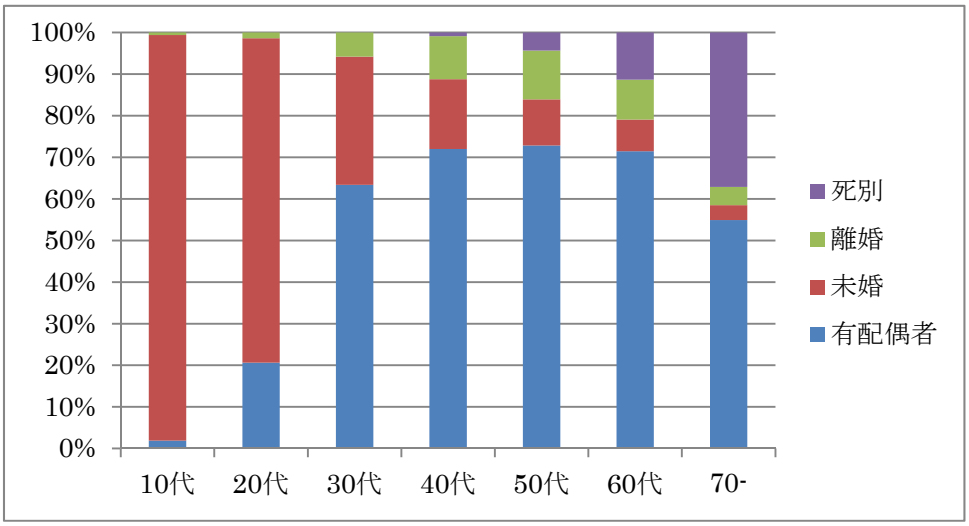


図 4　年齢別の有配偶者の比率



就業状態別には、仕事をしていた人の中では、会社などの役員の幸福感が最も高く、臨時・日雇いと回答した人の幸福感が最も低い。仕事をしていなかった人の中では、仕事を休んでいた人が 7.3 と最も高く、次に、通学（学生）が 7.2、そして家事（主婦・主夫）が高い。仕事を探していた人（失業者）の現在の幸福感は 5.2 と非常に低い（表 3）。結果を解釈する際には、就業状態により、年齢や収入に大きな違いがあることに注意が必要である。

表 3　就業状態別の現在の幸福感、年齢、年収（指数）

表 3-1　仕事をしていた人

	現在の幸福感	年齢	世帯収入（指数）	本人収入（指数）	回答者数
常用雇用	6.6	44.5	4.4	3.3	2588
臨時・日雇	6.2	48.4	3.4	1.8	356
会社などの役員	7.2	52.8	5.2	4.5	234
自営業主	6.5	58.9	3.9	3.0	419
自営業の手伝い	6.7	55.7	4.0	1.6	238
内職	6.7	61.9	3.1	1.4	67
全体	6.6	47.9	4.3	3.1	3902

（回答者数は現在の幸福感に回答した人の数である。以下の表 3-2 も同じ）

表 3-2 仕事をしていなかった人

	現在の幸福感	年齢	世帯収入（指数）	本人収入（指数）	回答者数
仕事を休んでいた	7.3	48.6	3.8	2.4	55
仕事を探していた	5.2	44.8	2.7	0.8	126
通学	7.2	17.7	4.6	0.1	290
家事	7.1	58.8	3.7	0.9	691
職業生活引退（高齢者など）	6.5	73.4	3.1	2.3	1010
その他	6.2	59.1	3.0	1.5	253
全体	6.7	59.0	3.4	1.5	2425

＊本調査では、回答者の収入は範囲で質問しているため、収入への回答を比較のため、世帯収入指数、本人収入指数として指数化している。これらの指数は、年収が「全くない」を 0、「1 円以上 100 万円未満」を 1、「100 万円以上 200 万円未満」を 2、「200 万円以上 300 万円未満」を 3、「300 万円以上 500 万円未満」を 4、「500 万円以上 700 万円未満」を 5、「700 万円以上 1000 万円未満」を 6、「1000 万円以上」を 7 として計算した指数である。

②家族の幸福感

自分から見た他の同居家族の現在の幸福感を聞いたところ、6.8 と、本人の幸福感よりやや高い点になった（表 4-1）。但し、家族の幸福感と本人の幸福感を両方回答した人について、幸福感の差を調べると、非常に小さく、平均値に統計的に有意な差はない（表 4-2）。全体の平均値がやや高く出たのは、「同居家族がいない」、「無回答」の割合が影響したためである。

表 4　男女別の家族の幸福感

表 4-1 家族の現在の幸福感

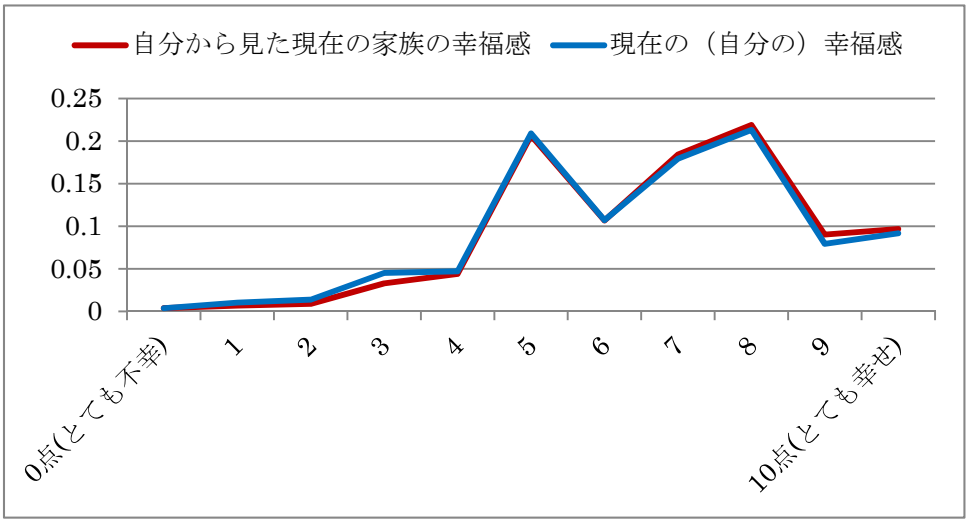
	平均	標準偏差	回答者数
男性	6.5	2.0	2556
女性	7.0	1.9	2781
全体	6.8	2.0	5337

表 4-2 家族の幸福感と自分の幸福感の差

1	平均	標準偏差	回答者数
男性	0.04	1.28	2554
女性	-0.01	1.21	2778
全体	0.01	1.24	5332

（注：家族の幸福感から自分の幸福感を引いた値。
非常に差が小さいので本表のみ小数点第 2 位まで表示）

図 5 自分からみた現在の家族の幸福感と自分の現在の幸福感の分布



（注：ここでは同居家族がいない、無回答を除いた分布データを用いている）

③理想の幸福感

0 点を不幸せだけを感じている状態、5 点を幸せと不幸せが半々、10 点を幸せだけを感じている状態として理想的な状態を聞いたところ、平均点は 7.2 と現在の幸福感より 0.6 点高い結果となった（表 5、図 6）。男女両方とも理想の方が高い。年齢別には、理想は 30 代にピークを迎える逆 U 字形となっている。理想と現実は 10 代ではほぼ一致しているが、その差は次第に開き始め、40 代、50 代で最大となる。その後、理想の低下と現在の上昇により縮小する（図 7）。

表 5　理想の幸福感と現在の幸福感　平均点

	理想	現在	差
男性	7.0	6.3	0.7
女性	7.5	6.9	0.5
全体	7.2	6.6	0.6

図 6　理想の幸福感と現在の幸福感の分布

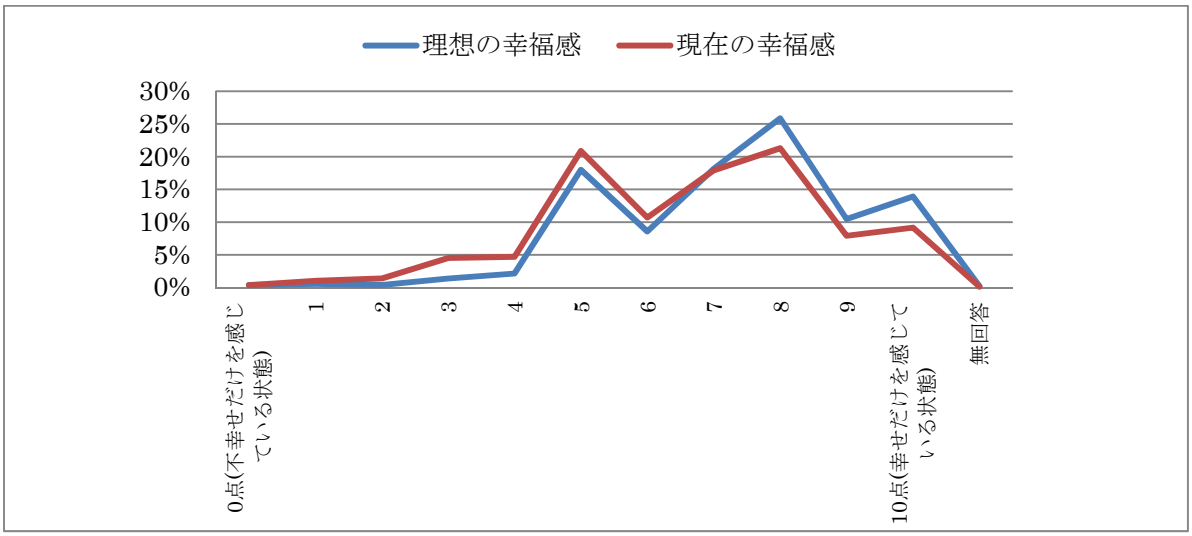
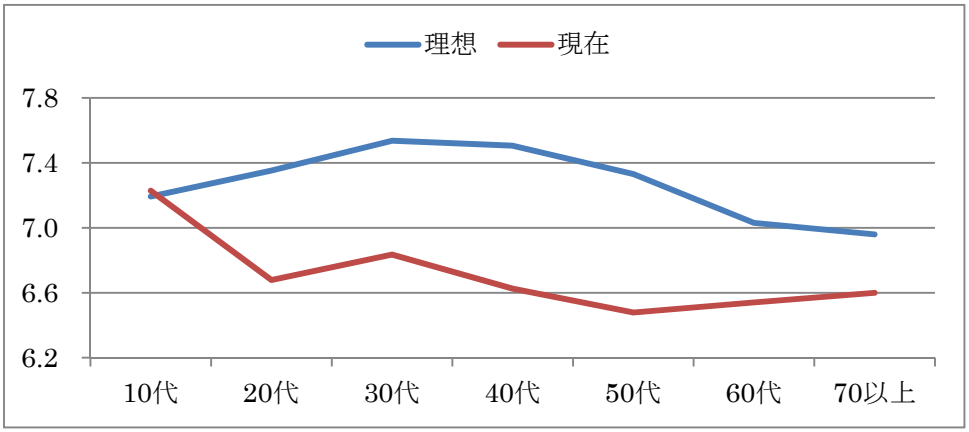


図 7　理想と現在の幸福感の年齢別推移



④将来の幸福感

5 年後の幸福感を現在と同じ場合に 0 点とし、今より幸せの場合最大プラス 5 点、今より不幸せの場合最小マイナス 5 点で聞いたところ、平均点は 0.4 となった。男女別にもほとんど変わらない（表 6）。多くの人が 0 と回答しており、幸福感は現在とあまり変わらないと考えている（図 8）。年齢別には、10 代、20 代、30 代が 1 点以上のプラスを回答し、年齢に応じて低下し、60 代以降はマイナスを予想している（図 9）。

表 6　5 年後の幸福感（現在と比較して）平均点

男性	0.3
女性	0.5
全体	0.4

図 8　5 年後幸福感の方向性の回答者の分布

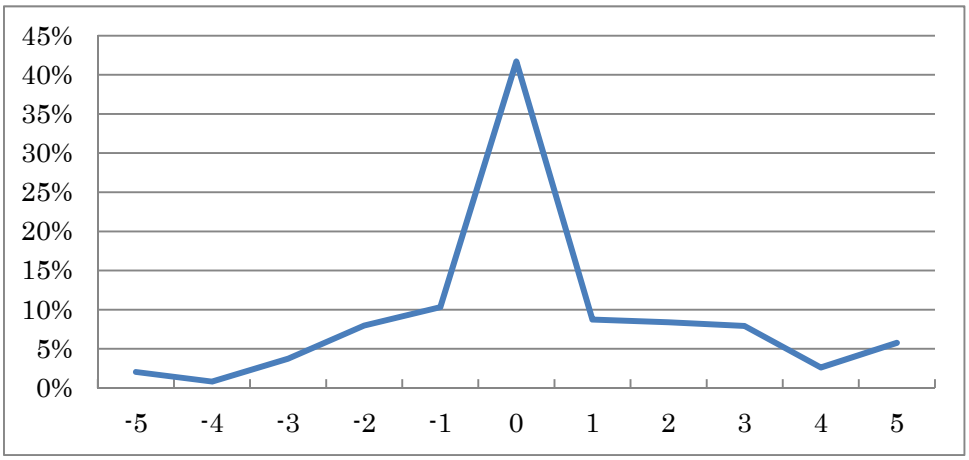
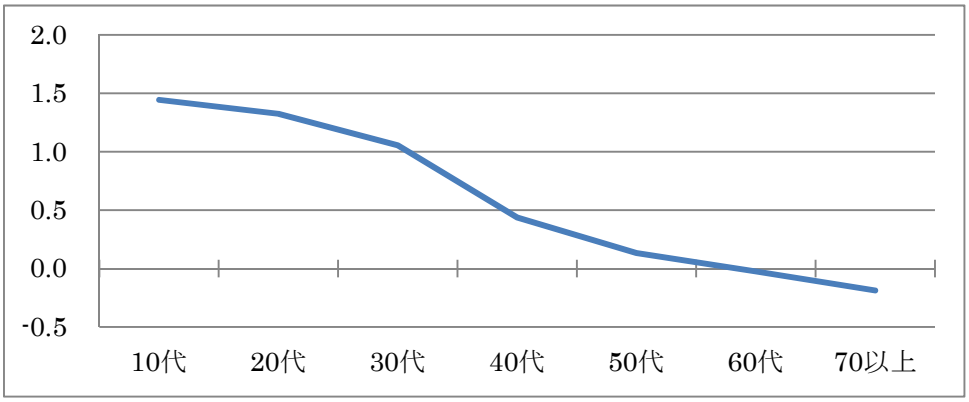


図 9　年齢別の将来の幸福感（縦軸は上昇幅）



⑤生活満足度

0 点から 10 点という主観的幸福感等と同じスケールで現在の生活の満足度を聞いたところ、平均点は 6.0 と、現在の幸福感(6.5)に比べてやや低い結果となった（表 7）。現在の幸福感と比較し、高い得点の人が減り、低い得点の人が増えている（図 10）。年齢別に現在の幸福感と比較すると、生活満足度は全体に低く、特に 20 代の落ち込みがひどいが、50 代から大きく上昇に転じていることが分かる（図 11）。

表 7 現在の生活満足度

	平均	標準偏差	回答者数
男性	5.6	2.3	3027
女性	6.3	2.2	3412
全体	6.0	2.3	6439

図 10　現在の生活満足度と幸福感の回答者分布

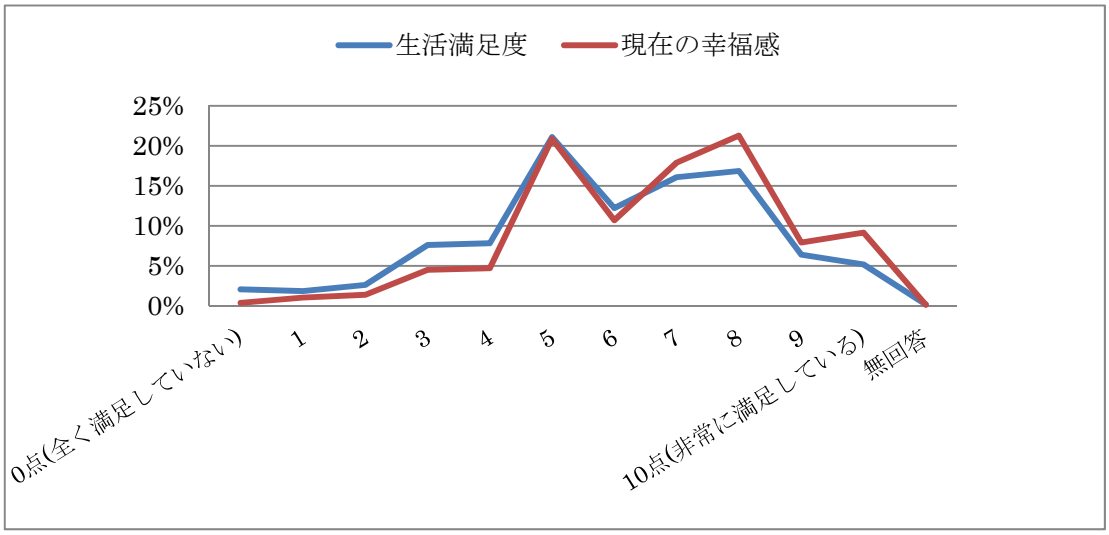
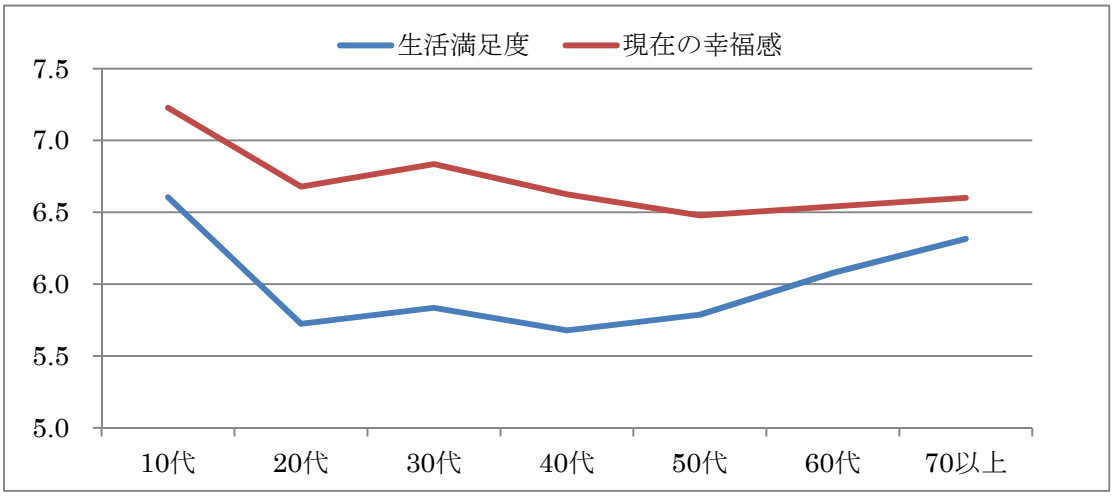


図 11 年齢別生活満足度と現在の幸福感



⑥協調的幸福感

協調的関係性、穏やかさ、人並み感等を聞く９つの設問項目を０点から 10 点のスケールで聞いたところ、全体の平均は 5.8 となった。「平凡だが安定した日々を過ごしている」という質問項目で点が高く、「大きな悩みごとはない」という項目で、点が低いという結果となっている。男女別には他の幸福感同様、女性の方が幸福感が高い(表 8)。

表８　協調的幸福感　平均点

	男性	女性	全体
自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う	5.1	5.7	5.4
大きな悩みごとはない	5.1	5.4	5.3
周りの人たちと同じくらいにうまくいっている	5.2	5.8	5.5
周りの人に認められていると感じる	5.3	5.7	5.5
平凡だが安定した日々を過ごしている	6.1	6.8	6.5
周りの人たちと同じくらい幸せだと思う	5.5	6.1	5.8
大切な人を幸せにしていると思う	5.6	6.3	6.0
周りの人並みの生活は手に入れている自信がある	5.6	6.2	5.9
人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている	5.8	6.3	6.1
協調的幸福感	5.5	6.0	5.8

質問項目ごとの回答の割合は表 9 のようになった。多くの項目で５と回答する人の割合が多い。

表９　協調的幸福感の回答者の分布（%）

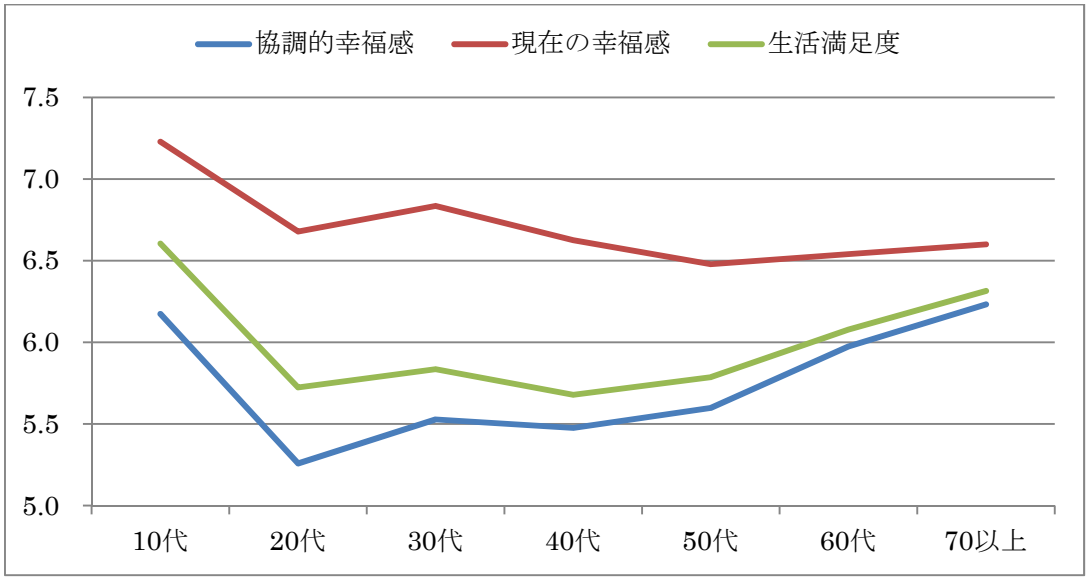
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	無回答
自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う	3.2	1.7	3.6	8.4	7.5	33.7	10.9	13.1	10.7	3.3	3.3	0.5
大きな悩みごとはない	7.8	3.9	6.3	10.8	6.9	20.8	6.7	10.1	12.4	5.7	8.3	0.2
周りの人たちと同じくらいにうまくいっている	3.7	2.1	4.5	8.4	7.5	29.7	8.7	12.6	12.4	4.8	5.1	0.4
周りの人に認められていると感じる	3.1	2.2	4.1	8.1	7.3	30.1	10.1	12.9	12.6	5.0	4.2	0.3
平凡だが安定した日々を過ごしている	2.5	1.8	3.0	5.4	6.6	20.2	7.8	12.1	16.1	8.9	15.4	0.2

周りの人たちと同じくらい幸せだと思う	3.6	2.0	3.6	7.7	7.3	25.8	8.2	12.6	14.0	6.1	8.7	0.4
大切な人を幸せにしていると思う	4.4	1.9	3.1	6.6	6.3	24.2	8.6	13.2	15.2	7.8	8.4	0.4
周りの人並みの生活は手に入れている自信がある	4.3	2.5	3.8	7.8	7.4	21.8	7.7	12.5	14.3	7.1	10.4	0.4
人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている	4.3	2.3	3.6	7.1	6.3	20.7	8.4	12.1	15.7	8.3	10.9	0.2
協調的幸福感	0.8	1.9	3.4	6.4	11.4	21.5	15.7	16.6	12.6	6.2	2.2	1.5

*協調的幸福感は、上記の 9 項目すべての平均値として計算。個人ごとに計算した上で、四捨五入して 0 から 10 のスケールに当てはめている。

年齢別には、協調的幸福感の方が生活満足度と比較してもさらに 20 代の落ち込みが大きく、その後は年齢を追ってより上昇するカーブを描いている（図 12）。

図 12　年齢別の協調的幸福感及び現在の幸福感、生活満足度



⑦過去数週間の感情経験

様々な感情について過去数週間の経験頻度を聞いたところ、「親しみ」、「共感・思いやり」、「やさしさ」を肯定的な感情として、「しばしば」経験する一方、否定的な感情としては、「ストレス」、「心配」、「怒り」が経験する人が多い（表 10）。「全くない」を 0 点、「まれに」を 1 点、「ときどき」を 2 点、「しばしば」を 3 点として、感情別に指数化すると、全体では肯定的な経験の平均は 1.8 であり、否定的な経験の平均値 1.2 を上回っている（表 11）。主観的幸福度の一指標として、肯定的経験と否定的経験の差である感情経験バランスを計算すると、0.7 となっている。男女別には、肯定的感情経験は女性の方が、否定的感情経験は男性の方が高く、バランスでも女性の方が男性より高い。年齢別には、感情経験バランスは 20 代を底とする J 字形である（図 13）。

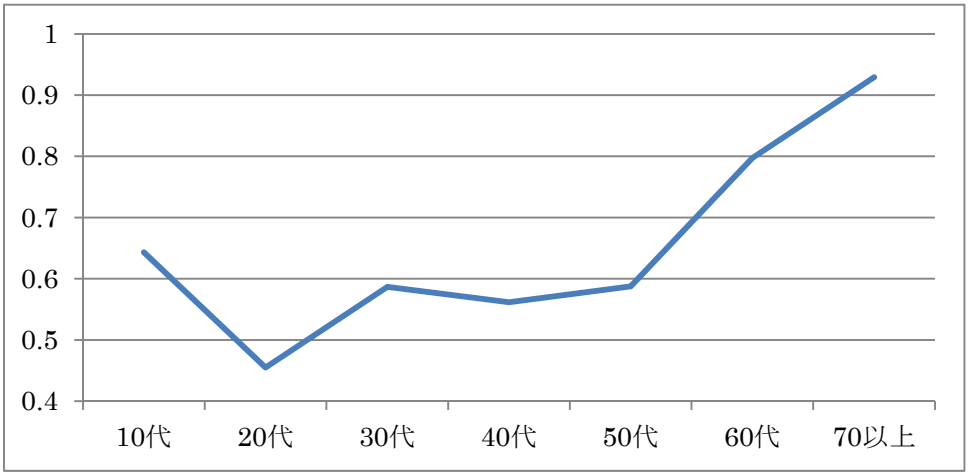
表 10　過去数週間の感情経験の回答者の分布　(%)

	しばしば	ときどき	まれに	全くない	無回答
誇り	8.1	34.1	37.8	19.1	1.0
穏やかさ	25.2	47.6	22.4	3.8	1.0
共感・思いやり	28.1	49.9	18.8	2.0	1.1
寛容さ	19.0	48.9	26.4	3.9	1.8
心のやすらぎ	23.0	45.7	25.2	5.5	0.6
やさしさ	27.7	51.7	18.0	1.9	0.8
親しみ	28.8	48.4	19.4	2.4	1.0
充実感	20.4	41.5	29.8	7.6	0.7
満足感	18.2	41.7	30.1	9.3	0.7
負い目	10.2	23.6	39.9	25.3	0.9
失望	8.9	20.9	37.8	31.5	1.0
悲しみ	8.6	23.8	43.6	23.0	1.0
ストレス	26.0	33.3	30.1	9.9	0.6
恐怖	6.3	17.5	35.4	39.8	1.0
心配	20.6	36.2	34.5	8.1	0.6
恥	5.9	20.5	41.5	31.0	1.1
怒り	14.1	31.1	39.9	14.1	0.8
罪悪感	4.9	15.7	38.5	40.0	0.9
利己	4.1	20.6	48.3	25.6	1.4
嫉妬	3.9	12.8	37.5	45.0	0.8
欲求不満	7.9	21.0	41.5	29.0	0.7

表 11 過去数週間の感情経験バランス

		平均	標準偏差	回答者数
男性	肯定的経験平均	1.8	0.6	2923
	否定的経験平均	1.2	0.6	2937
	感情経験バランス	0.6	0.9	2861
女性	肯定的経験平均	1.9	0.6	3264
	否定的経験平均	1.1	0.6	3261
	感情経験バランス	0.8	0.9	3163
全体	肯定的経験平均	1.8	0.6	6187
	否定的経験平均	1.2	0.6	6198
	感情経験バランス	0.7	0.9	6024

図 13 過去数週間の感情経験バランス



（２）様々な主観的指標

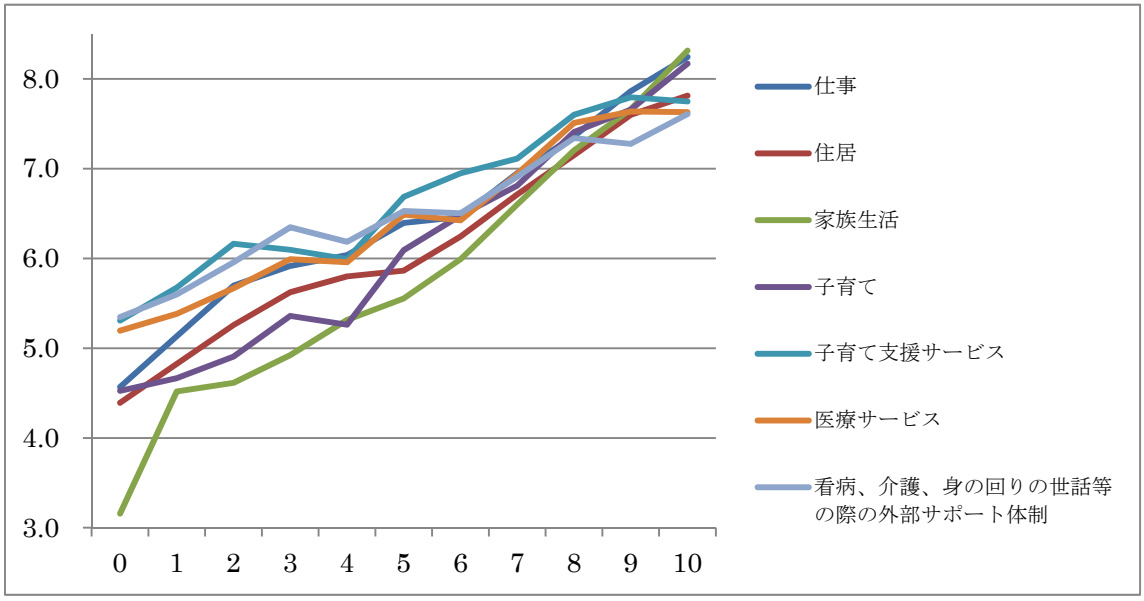
⑧生活の局面別満足度

各生活の局面における満足度を 0 点から 10 点のスケールで聞いたところ、相対的には家族生活で満足度が高い一方、介護等のサポート体制や子育て支援サービスへの満足度が低いという結果となった(表 12)。局面別の満足度のポイント別に、現在の幸福感の平均点を見ると、満足度が上昇するにつれ、幸福感が改善する様子がうかがえ、密接な関係の存在が示唆される（図 14)。特に、家族生活の満足度が低い回答者の現在の幸福感の平均点は低い。

表 12 生活の局面別の満足度

	男性			女性			全体		
	平均	標準偏差	回答者数	平均	標準偏差	回答者数	平均	標準偏差	回答者数
仕事	5.3	2.7	2486	6.0	2.6	2402	5.6	2.7	4888
住居	6.5	2.6	3008	6.9	2.6	3372	6.7	2.6	6380
家族生活	6.9	2.4	2748	7.2	2.4	3058	7.0	2.4	5806
子育て	6.3	2.6	1678	6.7	2.4	1668	6.5	2.5	3346
子育て支援サービス	4.9	2.3	1515	5.3	2.3	1431	5.1	2.3	2946
医療サービス	5.5	2.3	2605	5.7	2.4	2845	5.6	2.4	5450
看病、介護、身の回りの世話等の際の外部サポート体制	4.9	2.2	1842	5.1	2.4	1852	5.0	2.3	3694

図 14 局面別の満足度（横軸）と現在の幸福感の関係



⑨生活費のやりくりの困難さ

家族全体の世帯収入で必要不可欠な生活費をやりくりすることは毎月どの程度、容易または困難か聞いたところ、「非常に困難」、「どちらかというと困難」と回答した人が 34.8%となり、「非常に容易」、「どちらかというと容易」と回答した人の割合 26.6%を上回った（表 13）。

生活費のやりくりの容易さ・困難さ別の現在の幸福感を見ると、容易になるにつれ幸福感が改善している（図 15）。世帯年収と現在の幸福感の関係（図 16）と比較し、より明確な関係となっている。

表 13 生活費のやりくりの評価

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
非常に困難	532	8.2
どちらかというと困難	1714	26.6
どちらでもない	2440	37.8
どちらかというと容易	1408	21.8
非常に容易	306	4.7
無回答	51	0.8
困難（計）	2246	34.8
容易（計）	1714	26.6

図 15 生活費のやりくりの容易さ・困難さと現在の幸福感

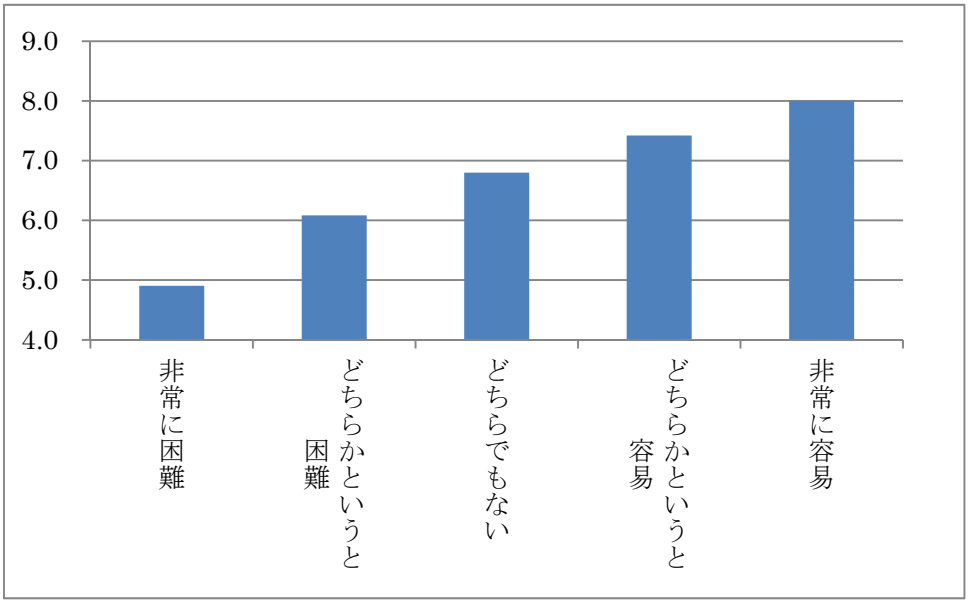
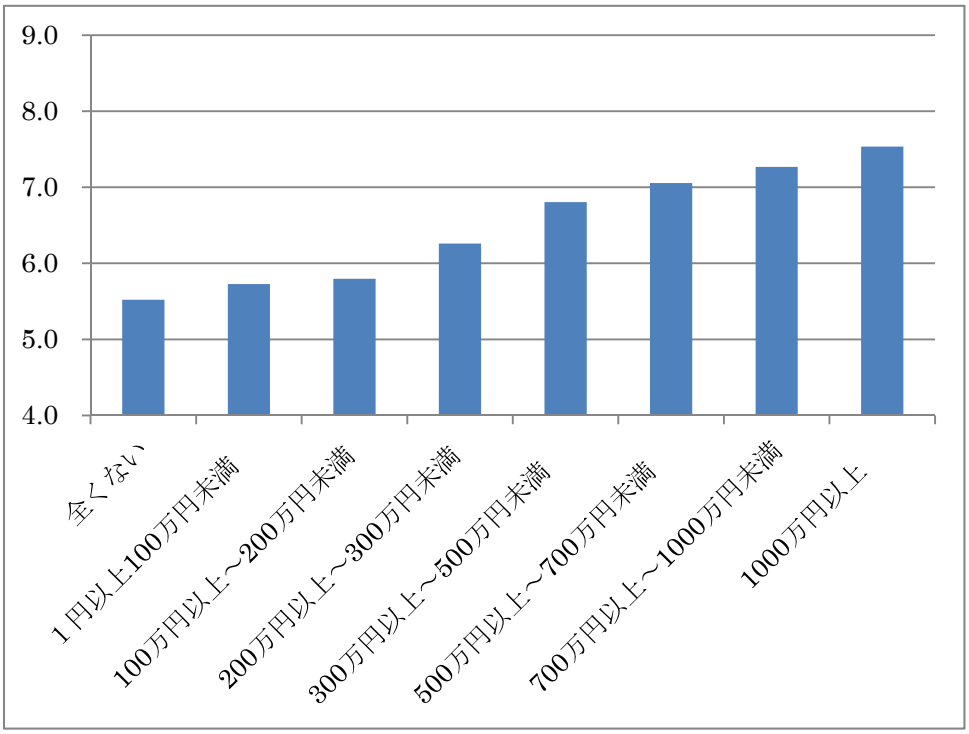


図 16 世帯年収と現在の幸福感



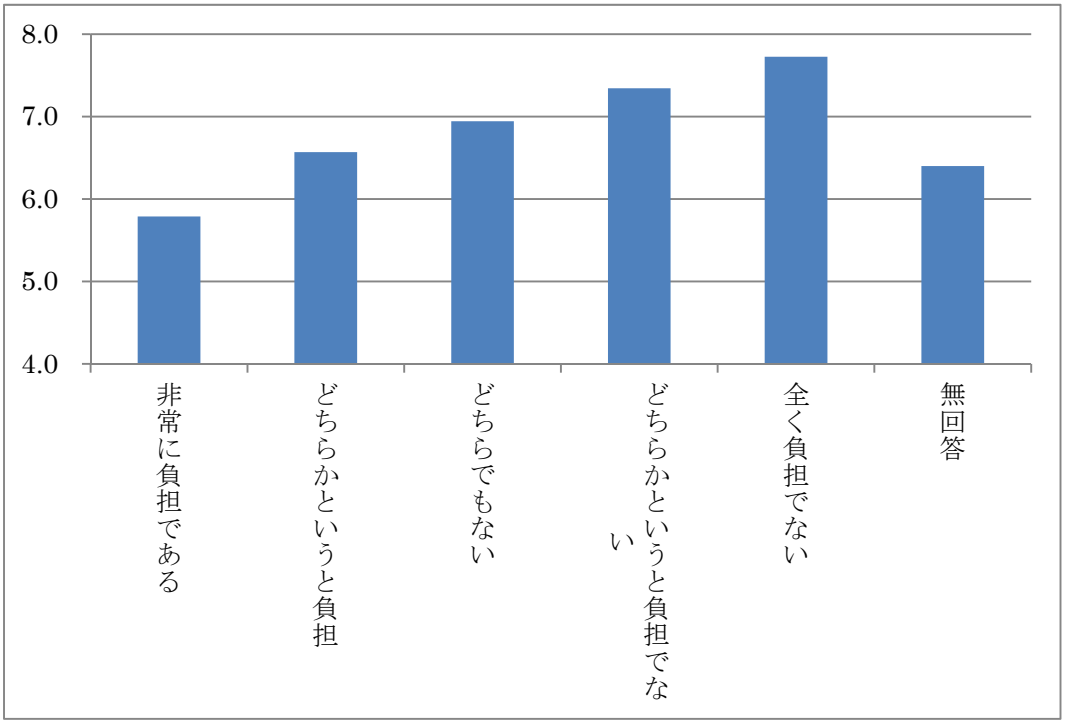
⑩住居費負担

住居にかかる総費用（住宅ローン、家賃、光熱費等）が家計にとって、どの程度の負担になっているか聞いたところ、負担（「非常に負担」、「どちらかというと負担」）とする回答が、過半数を超えており、多くの人が、住居費を負担と感じている（表 14）。住居費の負担感別の現在の幸福感を見ると、負担感の強さと幸福感の間にも、生活費のやりくりほど強くはないが、関係があることが分かる（図 17）。

表 14　住居費の負担感

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
非常に負担である	1219	18.9
どちらかというと負担	2493	38.6
どちらでもない	1857	28.8
どちらかというと負担でない	613	9.5
全く負担でない	228	3.5
無回答	41	0.6
負担	3712	57.5
負担でない	841	13.0

図 17 住居費の負担感と現在の幸福感



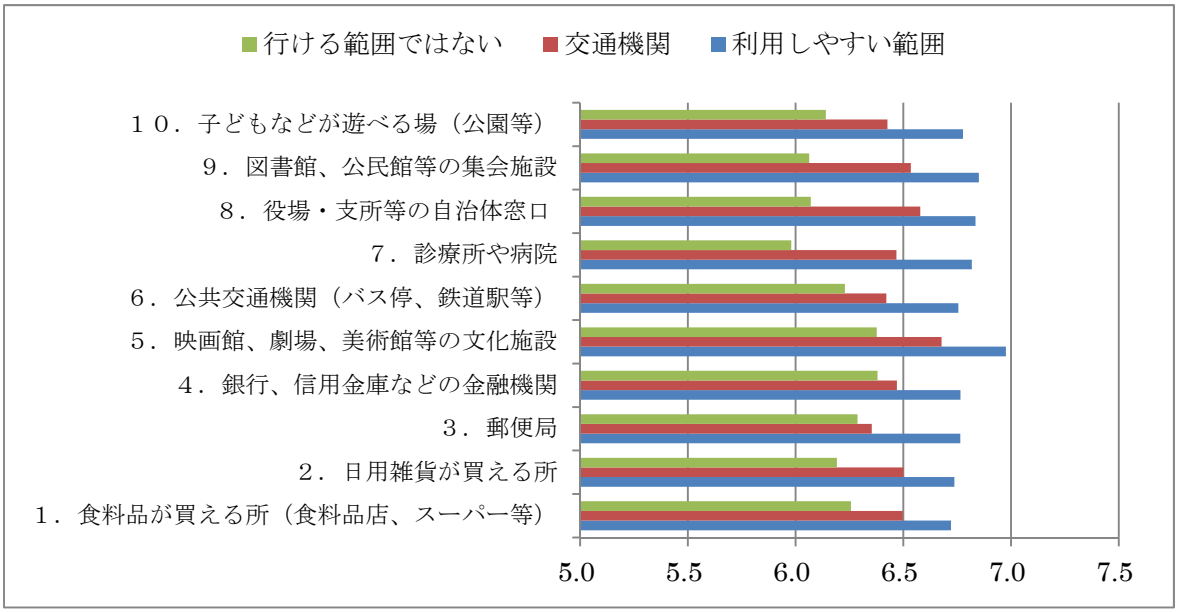
⑪近隣の施設

近隣の施設へのアクセスについて聞いたところ、「行ける範囲ではない」とする回答が、様々な施設で存在した（表 15）。施設のアクセス別に現在の幸福感を見ると、それぞれ相関があることが分かるが、特に診療所・病院へのアクセスが悪い場合の現在の幸福感が低い（図 18）。

表 15 近隣の施設へのアクセス（%）

	利用しやすい範囲にある	交通機関を使えば行ける	行ける範囲でない	無回答
１．食料品が買える所（食料品店、スーパー等）	70.1	25.2	4.5	0.3
２．日用雑貨が買える所	66.4	28.5	4.7	0.4
３．郵便局	70.7	25.3	3.6	0.4
４．銀行、信用金庫などの金融機関	59.6	35.2	4.7	0.5
５．映画館、劇場、美術館等の文化施設	12.3	64.7	22.3	0.7
６．公共交通機関（バス停、鉄道駅等）	67.6	28.3	3.5	0.5
７．診療所や病院	55.3	40.4	3.9	0.4
８．役場・支所等の自治体窓口	37.0	56.8	5.7	0.4
９．図書館、公民館等の集会施設	43.6	49.2	6.7	0.5
１０．子どもなどが遊べる場（公園等）	67.7	25.1	6.4	0.7

図 18　近隣の施設へのアクセスと現在の幸福感



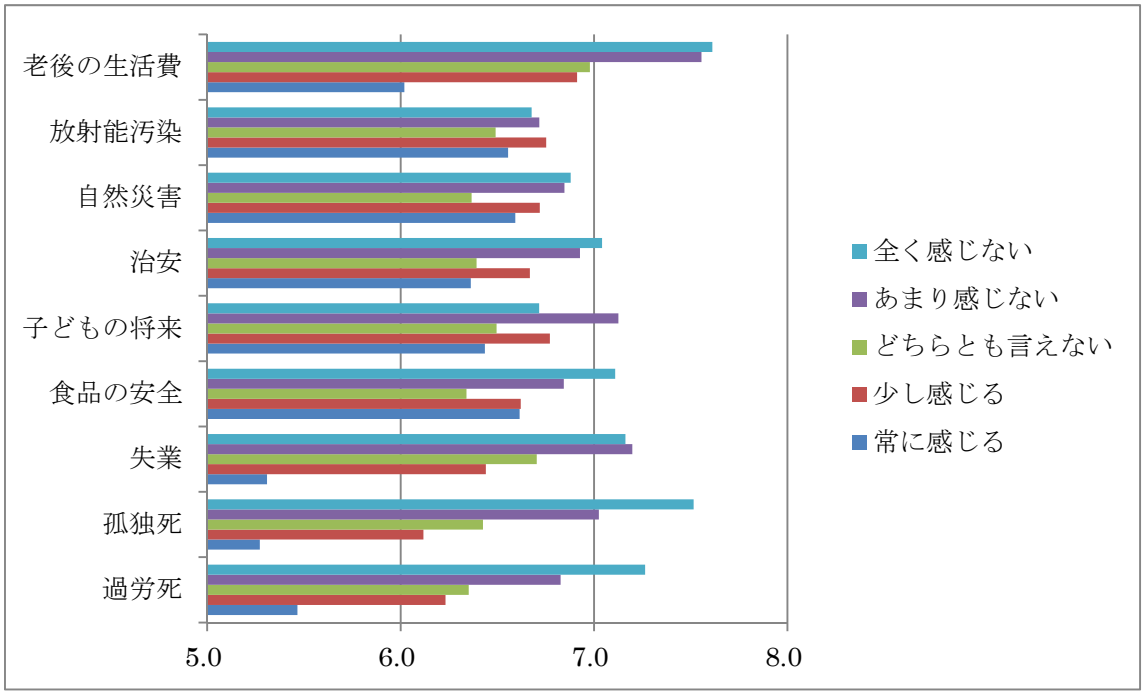
⑫不安

不安を引き起こすと思われる出来事に対して、どの程度不安を感じるか聞いたところ、「感じる」とする回答が最も多かったのは「老後の生活費」であった。次いで「自然災害」、「放射能汚染」、「子どもの将来」であった（表 16）。不安の程度別に現在の幸福感を見ると、「孤独死」、「失業」、「過労死」において、不安を「常に感じる」と回答した人の幸福感が低いことが分かる(図 19)。

表 16 各項目について不安を感じる程度　　(%)

	常に感じる	少し感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	全く感じない	無回答	感じる	感じない
過労死	5.3	18.1	23.3	27.9	24.6	0.8	23.4	52.6
孤独死	9.1	21.7	22.0	25.3	21.7	0.4	30.8	46.9
失業	14.0	20.6	21.8	17.2	24.1	2.3	34.7	41.2
食品の安全	15.1	31.9	23.5	20.7	8.2	0.6	47.0	28.9
子どもの将来	23.7	28.9	23.0	9.8	12.2	2.4	52.6	22.0
治安	9.9	30.3	28.8	21.7	8.6	0.8	40.2	30.3
自然災害	31.8	37.1	15.9	10.6	4.0	0.5	68.9	14.6
放射能汚染	22.0	31.3	19.8	15.1	11.2	0.6	53.3	26.4
老後の生活費	41.2	31.1	13.9	8.7	4.7	0.4	72.3	13.4

図 19 不安の程度と現在の幸福感



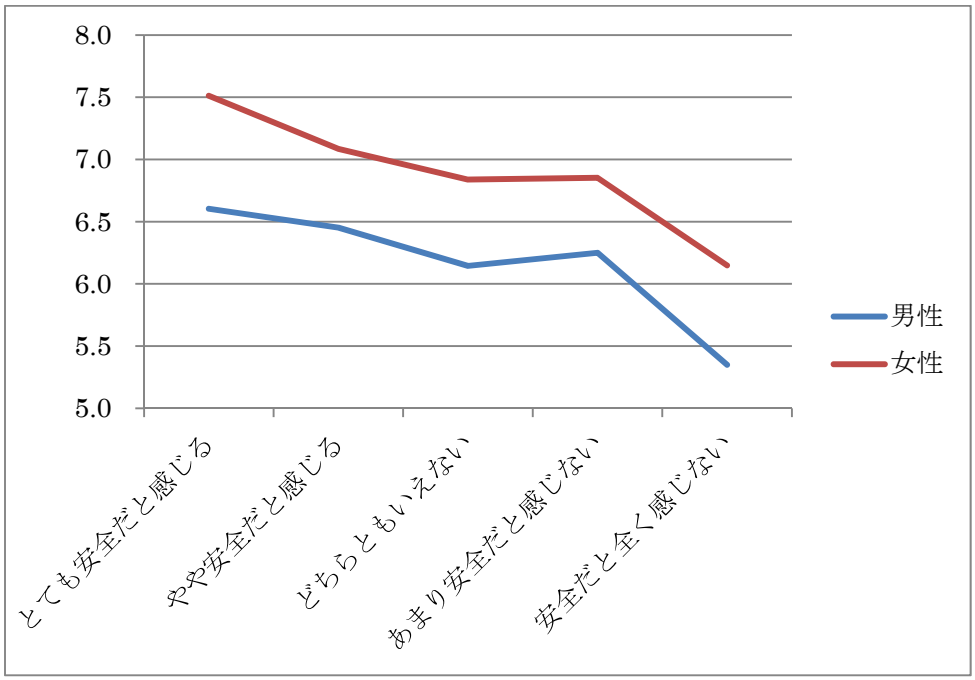
⑬夜の治安

住んでいる地域で、夜ひとり歩くとき、どの程度安全だと感じるか聞いたところ、安全だと感じると回答した人の方が、安全だと感じないと回答した人より多い(表 17)。安心感別に現在の幸福感を、さらに男女別で見ると男女にかかわらず、安心感が低いと現在の幸福感が低下している（図 21)。

表 17 近隣の夜の治安

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
とても安全だと感じる	586	9.1
やや安全だと感じる	2329	36.1
どちらともいえない	1974	30.6
あまり安全だと感じない	1293	20.0
安全だと全く感じない	256	4.0
無回答	13	0.2
安全だと感じる	2915	45.2
安全だと感じない	1549	24.0

図 20 夜、ひとり歩くときに安全だと感じる程度別の現在の幸福感



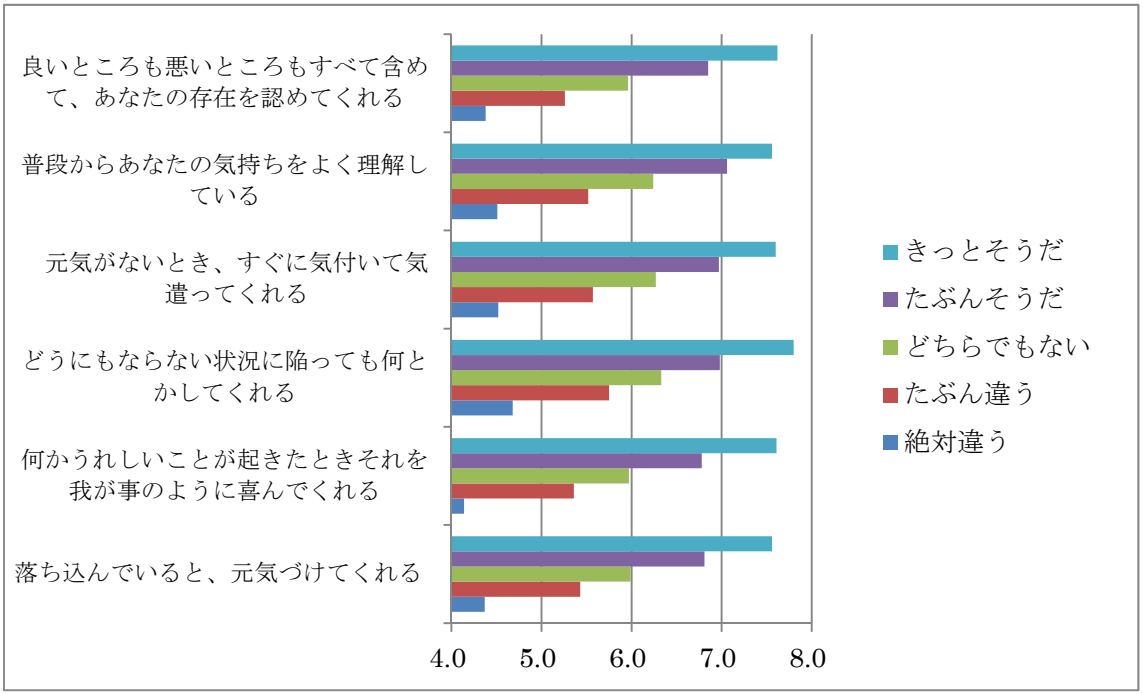
⑭身の周りの人から受ける援助への期待

「落ち込んでいると、元気づけてくれる」、「何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる」など、生活の様々な場面で身近な人がどの程度援助してくれるか、期待の程度を聞いたところ、多くの場面で過半数以上の人が援助を受けることを期待している（表 18)。援助の期待度別に、現在の幸福感を見ると、援助への期待が高いと現在の幸福感が高いことが分かる(図 21)。

表 18 場面ごとに身の周りから受ける援助への期待　　(%)

	絶対違う	たぶん違う	どちらでもない	たぶんそうだ	きっとそうだ	無回答	違う	そうだ
落ち込んでいると、元気づけてくれる	2.0	5.0	26.8	43.2	22.6	0.4	7.0	65.8
何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる	1.8	4.9	25.5	44.4	22.8	0.4	6.8	67.3
どうにもならない状況に陥っても何とかしてくれる	3.6	10.6	35.4	36.9	12.9	0.6	14.2	49.8
元気がないとき、すぐに気付いて気遣ってくれる	3.2	8.4	32.6	39.3	16.0	0.5	11.6	55.3
普段からあなたの気持ちをよく理解している	3.1	8.9	33.5	39.0	15.1	0.5	12.0	54.0
良いところも悪いところもすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる	2.1	5.8	26.3	43.2	22.2	0.4	7.9	65.4

図 21 場面ごとに身の周りから受ける援助への期待と現在の幸福感



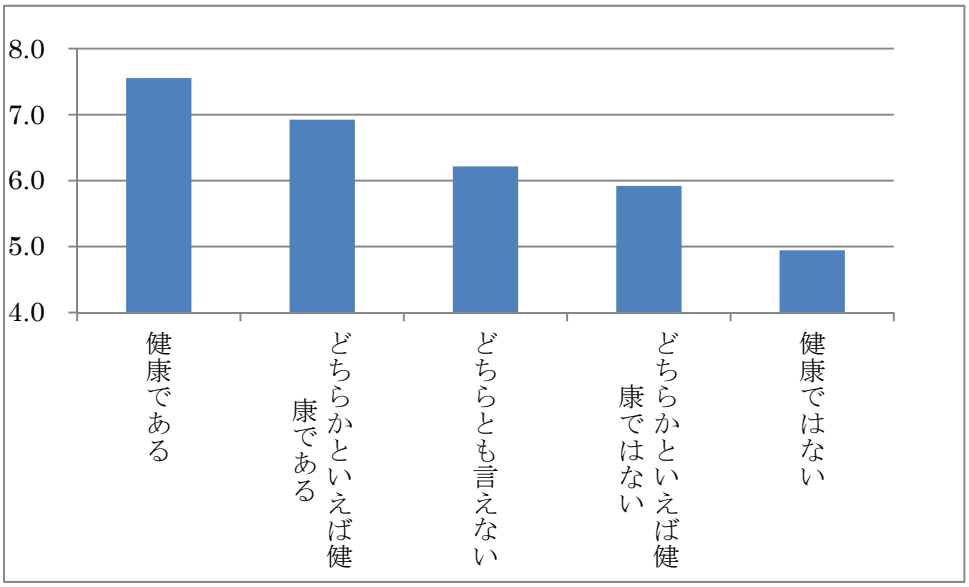
⑮自己申告の健康状態

自分自身の健康状態について聞いたところ、健康であるとする回答が 6 割程度となった(表 19)。健康状態の評価別に現在の幸福感を見ると、健康状態の評価が低下するにつれ、現在の幸福感が下がっている(図 22)。

表 19　自己申告の健康状態

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
健康である	1223	19.0
どちらかといえば健康である	2638	40.9
どちらとも言えない	1220	18.9
どちらかといえば健康ではない	990	15.3
健康ではない	372	5.8
無回答	8	0.1
健康	3861	59.9
健康ではない	1362	21.1

図 22 健康状態別の現在の幸福感



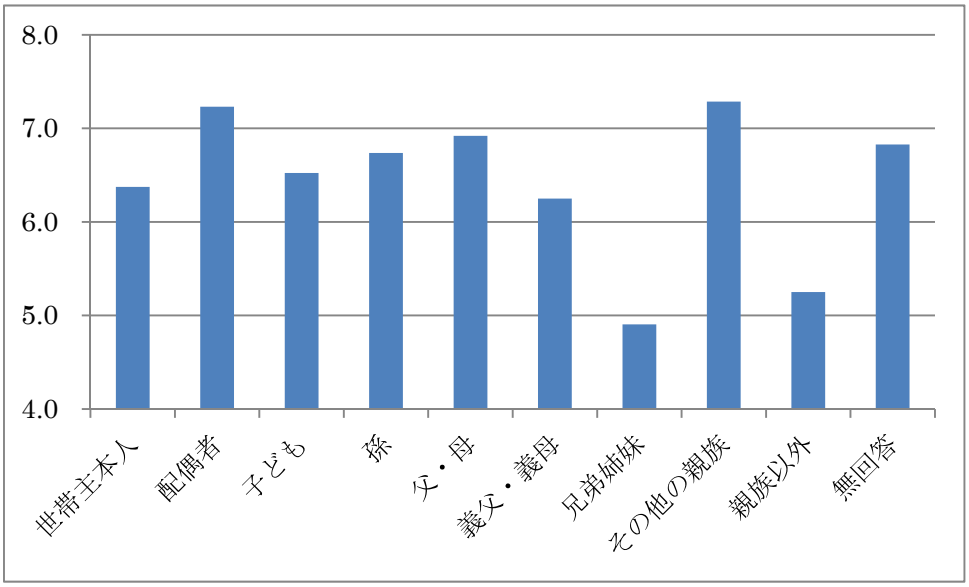
⑯世帯における地位

世帯主からみた続柄について聞いたところ、半数以上が「世帯主本人」と回答した（表20）。続柄別に現在の幸福感を見ると、世帯主本人の幸福感は単身世帯の影響もあり、相対的に低い（図23）。

表 20 回答者の世帯主から見た続柄

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
世帯主本人	3349	51.9
配偶者	1757	27.2
子ども	1085	16.8
孫	38	0.6
父・母	102	1.6
義父・義母	24	0.4
祖父母	3	0.0
義祖父母	4	0.1
兄弟姉妹	21	0.3
義兄弟・義姉妹	5	0.1
親族以外	12	0.2
無回答	30	0.5

図 23　続柄別の現在の幸福感



（回答者数が一桁の続柄のデータについては、図 23 に掲載していない）

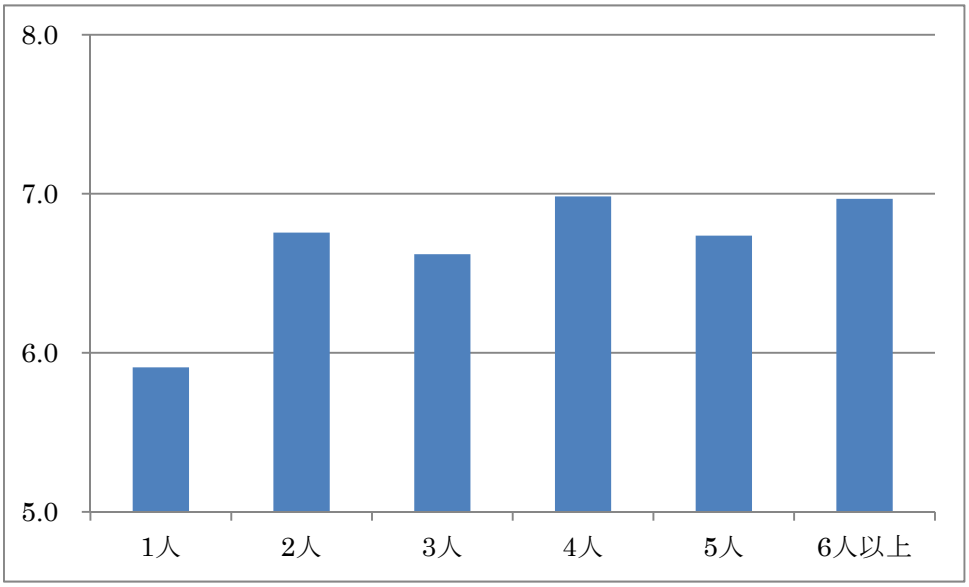
⑰世帯人数

世帯人数について聞いたところ、平均で 3.1 人となった。2010 年の国勢調査の 2.4 人と比較するとやや多い。構成比をみると、二人世帯が最も多い（表 21）。世帯人数別の現在の幸福感を見ると、単身世帯が幸福感が低いことを除くと、関係は、明確ではない（図 24）。

表 21　世帯人数

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
1 人	1085	16.8
2 人	1590	24.6
3 人	1302	20.2
4 人	1277	19.8
5 人	620	9.6
6 人以上	505	7.8
無回答	72	1.1

図 24 世帯人数別の現在の幸福感



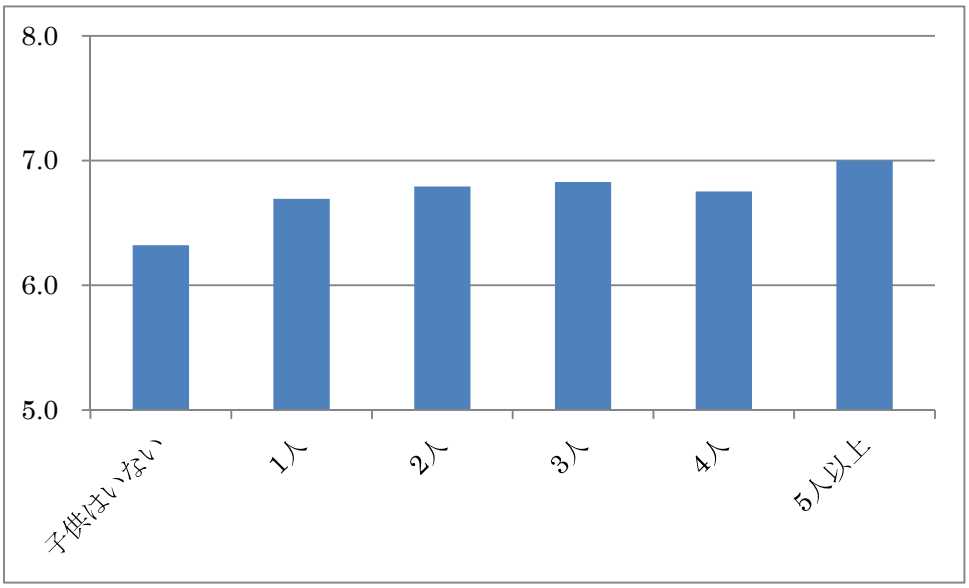
⑱子どもの数

子どもの数を聞いたところ、本調査において子どもがいると回答した人の割合は 7 割であった（表 22）。子どもの数別に現在の幸福感を見たところ、「子どもがいない」と回答した人の幸福感がもっとも低く、人数が増えるにつれ、やや増加している（図 26）。

表 22 回答者の子どもの数

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
1 人	902	14.0
2 人	2442	37.9
3 人	986	15.3
4 人	127	2.0
5 人以上	49	0.8
子どもはいない	1881	29.2
無回答	64	1.0
子どもがいる	4506	69.8

図 25 子どもの数別の現在の幸福感



⑲社会的接触頻度（直接会う場合）

直接、親しい人と会う頻度を聞いたところ、配偶者の場合、「同居中」か「該当者がいない」がほとんどで、子ども・両親の場合、同居していない場合は、「月一、二回」か、「年数回」という回答がそれぞれ１割程度であった（表 23）。同居していない兄弟姉妹とは「年数回」という回答が多い。友人とは、「月一、二回」、もしくは「年数回」という回答が多い。１割程度の人が、友人の該当者がいないと回答した。恋人は９割が「該当者がいない」と回答したが、該当した人のうち、もっとも回答者が多かったのは「最低週に一回」であった。

現在の幸福感との関係をみると、子どもとの接触頻度の減少は現在の幸福感の低下と相関がある一方、両親との接触頻度は、年数回以下になると明確に大きく下がるが、同居中の幸福感もやや低い（図 26）。配偶者との接触頻度と現在の幸福感は、複雑な関係になっているが、これは「同居中」と「該当者がいない」以外の回答者数が極端に少ないことが影響しているものと考えられる。

表 23 社会的接触頻度 (%)

	同居中	毎日	二、三日に一回	最低週一回	月一、二回	年数回	それ以下	音信不通で所在不明	該当者がいない	無回答
配偶者	55.7	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.1	39.0	3.8
子ども	32.8	3.9	2.8	5.1	9.9	9.8	2.4	0.4	29.1	3.7
両親	21.1	3.4	2.5	4.8	11.8	11.6	3.1	0.2	30.4	11.0
配偶者の両親	4.1	1.1	1.0	2.4	8.2	12.1	4.7	0.3	58.7	7.5
兄弟姉妹	8.7	1.9	2.3	4.6	17.3	34.3	14.3	0.8	12.2	3.6
配偶者の兄弟姉妹	0.2	0.6	0.9	1.9	8.7	27.5	16.9	0.8	39.7	2.8
その他親族	2.5	0.7	0.8	1.7	7.6	32.6	35.3	1.0	15.2	2.4
友人	0.1	6.7	9.1	12.0	26.0	23.7	10.0	0.5	10.2	1.6
恋人	0.5	0.8	1.4	2.2	1.8	0.5	0.3	0.1	90.1	2.3

図 26-1 社会的接触頻度（配偶者、子ども、両親）と現在の幸福感

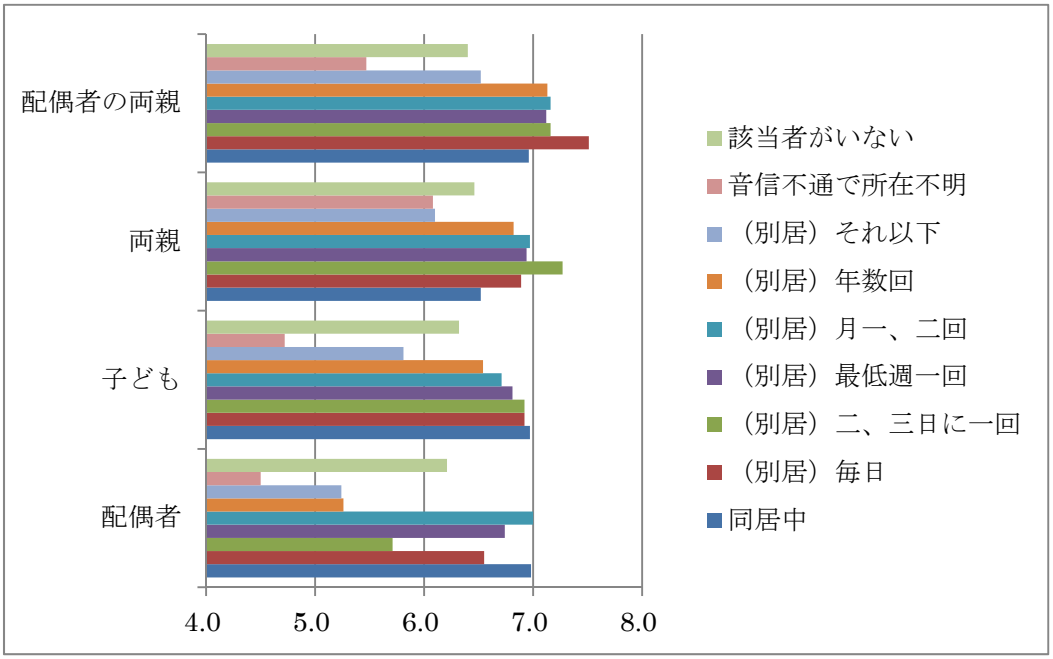
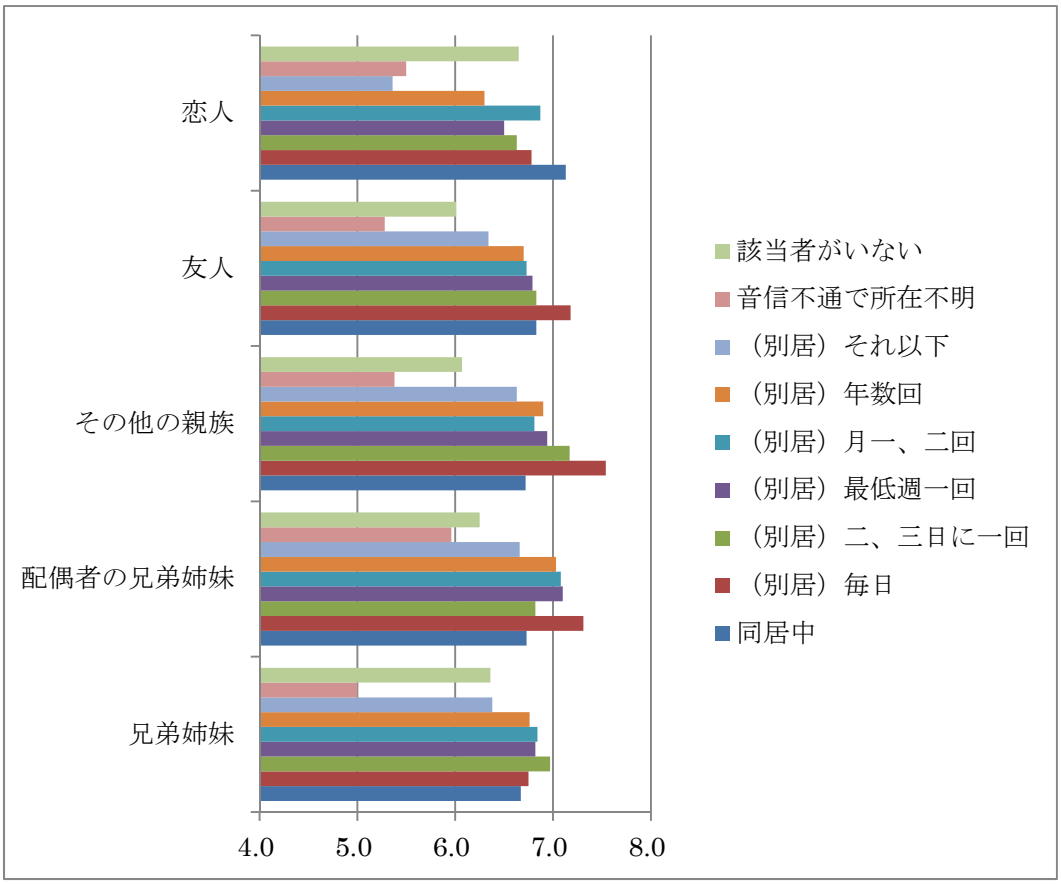


図 26-2 社会的接触頻度（兄弟姉妹、親族、友人、恋人）と現在の幸福感



⑳社会的接触頻度（電話、郵便、メールなど）

電話やメールなどを通じた接触頻度についても聞いていみたが、電話やメールなどを利用した接触頻度の方がやや多い程度であった。ただ、恋人には、該当者の多くが電話やメールを利用して毎日接触している（表 24）。

表 24 電話やメールを用いた接触頻度 (%)

	同居中	毎日	二、三日に一回	最低一週一回	月一、二回	年数回	それ以下	信通所不音不で在明	該当がない者い	無回答
配偶者	55.7	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	39.0	4.0
子ども	32.8	3.7	5.0	6.9	11.5	4.5	1.4	0.4	29.1	4.6
両親	21.1	2.0	3.7	6.5	12.9	6.3	4.4	0.2	30.4	12.3
配偶者の両親	4.1	0.7	1.0	2.2	6.9	8.6	9.8	0.3	58.7	7.8
兄弟姉妹	8.7	1.2	3.2	6.3	20.8	28.6	13.7	0.8	12.2	4.5
配偶者の兄弟姉妹	0.2	0.3	0.8	1.5	8.9	21.4	22.9	0.8	39.7	3.4
その他親族	2.5	0.2	0.7	1.6	7.5	25.5	42.6	1.0	15.2	3.2
友人	0.1	6.1	12.4	13.5	25.7	18.8	10.4	0.5	10.2	2.2
恋人	0.5	3.6	1.3	1.0	0.6	0.1	0.3	0.1	90.1	2.3

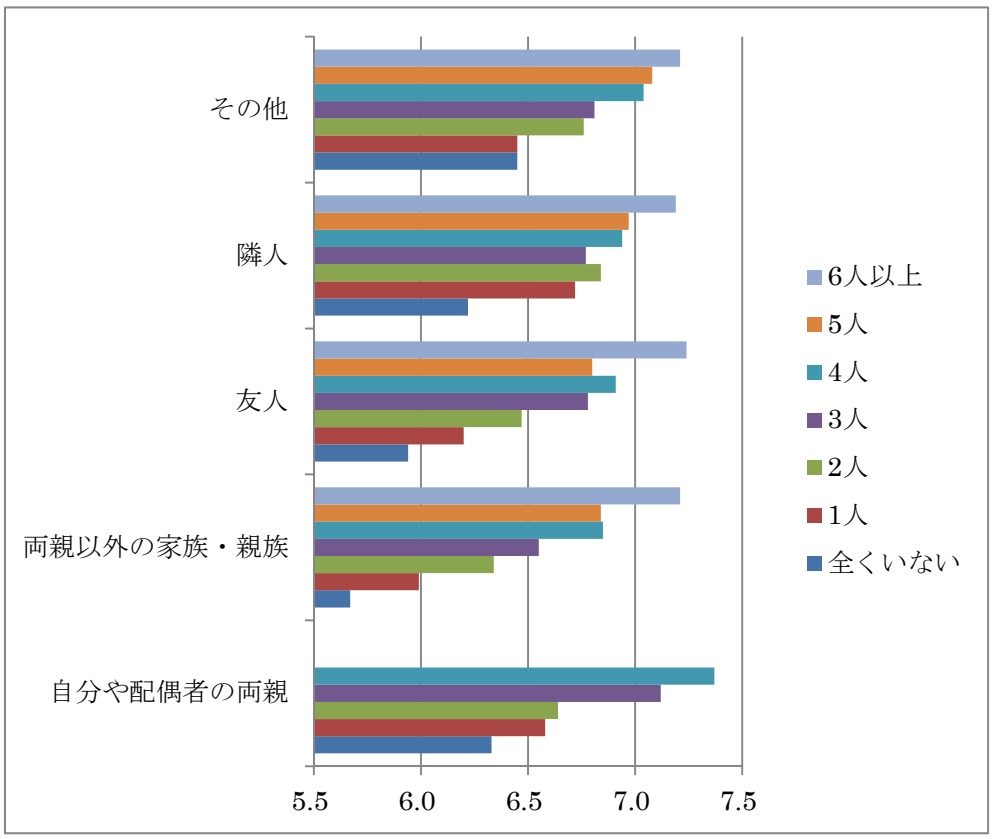
㉑困難時に助けてくれる人の数

病気や災難にあった際に助けてくれる家族・親類、友人、隣人の数を聞いたところ、その他を除くとほとんどのカテゴリーで、複数の人が助けてくれるとする回答者が多い（表25）。但し、隣人に病気や災難の際に助けてくれる人が全くいないと回答した人が３割以上いた。助けてくれる人の数別に、現在の幸福感を見ると、明確な相関関係が見られる（図27）。

表 25 困難な時に助けてくれる人の数　(%)

	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人以上	全くいない	無回答
あなた・配偶者の両親	15.4	23.4	9.0	10.7			37.9	3.6
両親以外の家族・親類	7.1	17.5	14.1	11.7	7.8	30.3	9.6	1.9
友人	8.8	16.6	16.4	6.8	6.9	24.1	17.5	2.9
隣人	8.9	17.4	11.4	5.9	4.0	13.2	36.0	3.2
その他	5.3	6.7	5.7	2.2	2.0	12.8	55.2	10.1

図 27 助けてくれる人の数別の現在の幸福感



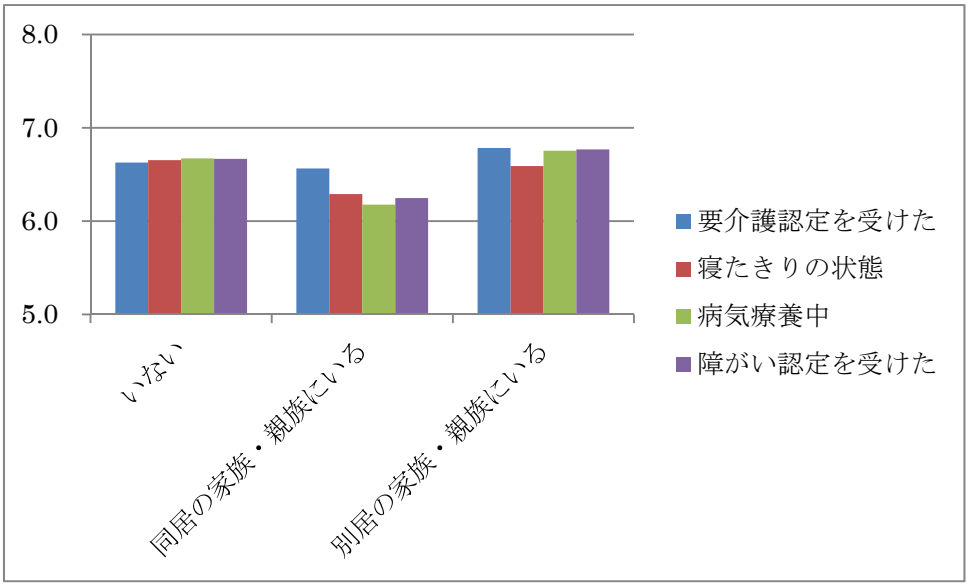
㉒介護等

家族・親族に要介護認定を受けた方や寝たきり状態の方、病気療養中の方がおられるか、聞いたところ、要介護認定を受けた方がいる回答者は、18%近くに及んでいる（表 26）。寝たきり状態の方がいると回答した人の割合も６％を超えている。一方、現在の幸福感との関係を見ると、要介護認定を受けた同居中の家族や親族がいる人の幸福感はやや低いが、別居している場合はやや高いという結果になった（図 28）。

表 26 要介護認定、寝たきりの家族・親族がいると回答した人の割合(%)

	いない	同居の家族・親族にいる	別居の家族・親族にいる	無回答
要介護認定を受けられた方	80.9	5.8	12.0	1.3
寝たきり状態の方	91.4	2.0	4.6	2.0
病気療養中の方	81.9	6.1	10.0	2.0
障がい認定を受けられた方	82.6	6.4	8.9	2.1

図 28 要介護認定等を受けた家族・親族がいる人別の現在の幸福感



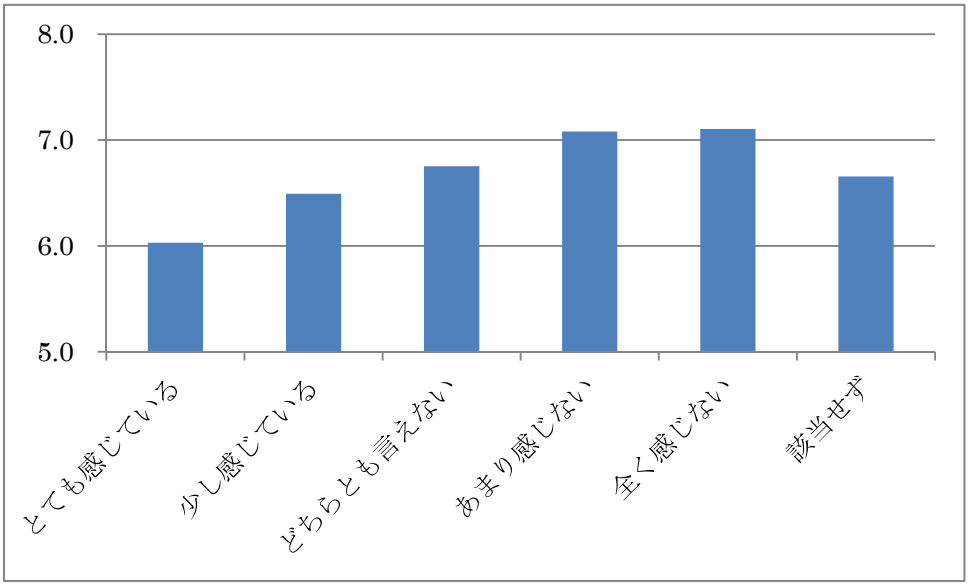
㉓介護等の負担感

家族・親族の中で寝たきり等の状態にあり、自分または同居の誰かが世話をしている人がいる、と答えた人に負担感を聞いたところ、負担感を感じている人の方が感じていない人の二倍あり、２割の人は「とても感じている」と回答している（表 27）。負担感の高い人の幸福度は低い一方、「あまり感じない」「全く感じない」と回答した人の幸福感は、該当しなかった人の幸福感より高い（図 29）。

表 27 介護等の負担感

	回答者数	構成比(%)
該当数（総数）	2003	100.0
とても感じている	405	20.2
少し感じている	644	32.2
どちらとも言えない	372	18.6
あまり感じない	348	17.4
全く感じない	191	9.5
無回答	43	2.1
感じている	1049	52.4
感じていない	539	26.9

図 29　介護等負担感と現在の幸福感



㉔学歴

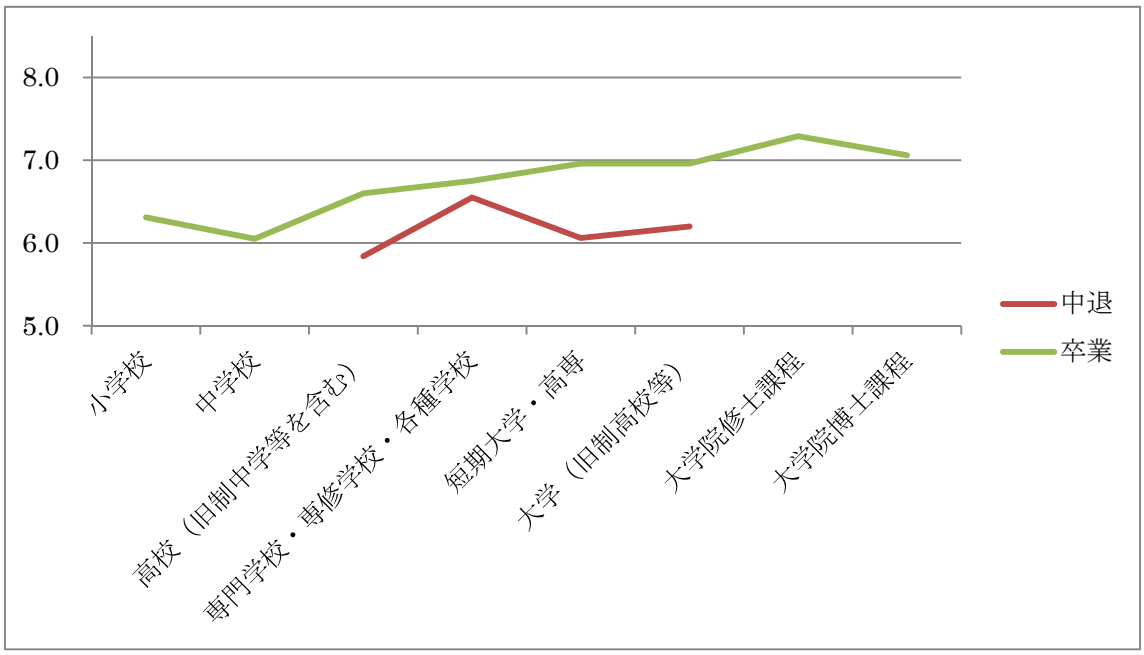
学歴について聞いたところ、92.3%の回答者が卒業と回答し、在学中が 5.3%、中退が 5.6%となった（表 28）。卒業学歴としてもっとも多かったのは 36%の高校卒業であった。ついで大学卒の 17.3%であった。

学歴と現在の幸福感の関係を見ると、卒業学歴でみると、高学歴の回答者の現在の幸福感が高いが、中退と回答した人の現在の幸福感は必ずしも高くはない（図 30）。

表 28 回答者の学歴

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
小学校卒業	97	1.5
中学在学中	42	0.7
中学中退	10	0.2
中学卒業	772	12.0
高校（旧制中学含む）在学中	160	2.5
高校中退	177	2.7
高校卒業	2334	36.2
専門・専修学校・各種学校在学中	27	0.4
専門学校等中退	65	1.0
専門学校等卒業	741	11.5
短期大学・高専在学中	6	0.1
短大等中退	17	0.3
短大等卒業	521	8.1
大学（旧制高校含む）在学中	99	1.5
大学中退	85	1.3
大学卒業	1117	17.3
大学院修士課程在学中	5	0.1
大学院修士中退	4	0.1
大学院修士卒業	93	1.4
大学院博士課程在学中	1	0.0
大学院博士中退	3	0.0
大学院博士卒業	16	0.2
その他	18	0.3
無回答	41	0.6
在学中	340	5.3
中退	361	5.6
卒業	5691	92.3

図 30　学歴と現在の幸福感



（注：中学中退、大学院修士課程中退、博士課程中退のデータ数は非常に少ないので図から削除している）

㉕社会保障給付

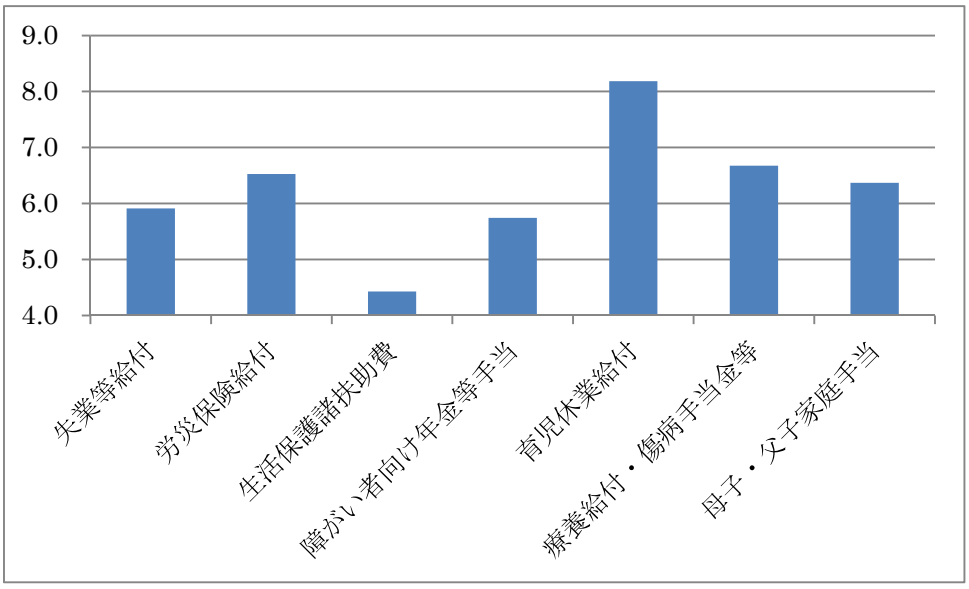
社会保障給付を受けているかどうか、聞いたところ、どれも受けていないと回答した人の割合が 92%であった（表 29）。複数回答であるため、回答の合計は回答者総数を超えている。

受けている社会保障給付別に現在の幸福感を見ると、生活保護諸扶助費を受けていると回答した人の現在の幸福感が非常に低い（図 31）。一方、育児休業給付費を受けていると回答した人の幸福感は、非常に高い。

表 29 受けている社会保障給付

	回答者数	回答者比率(%)
総数	6451	100.0
失業給付	135	2.1
労災保険給付	137	2.1
生活保護諸扶助費	61	0.9
障害者向け年金等諸手当	97	1.5
育児休業給付	27	0.4
療養給付・傷病等手当金等	77	1.2
母子・父子家庭手当	73	1.1
どれも受けていない	5932	92.0
回答計	6539	101.4

図 31 社会保障給付と現在の幸福感



（３）被災地、被災地以外の集計

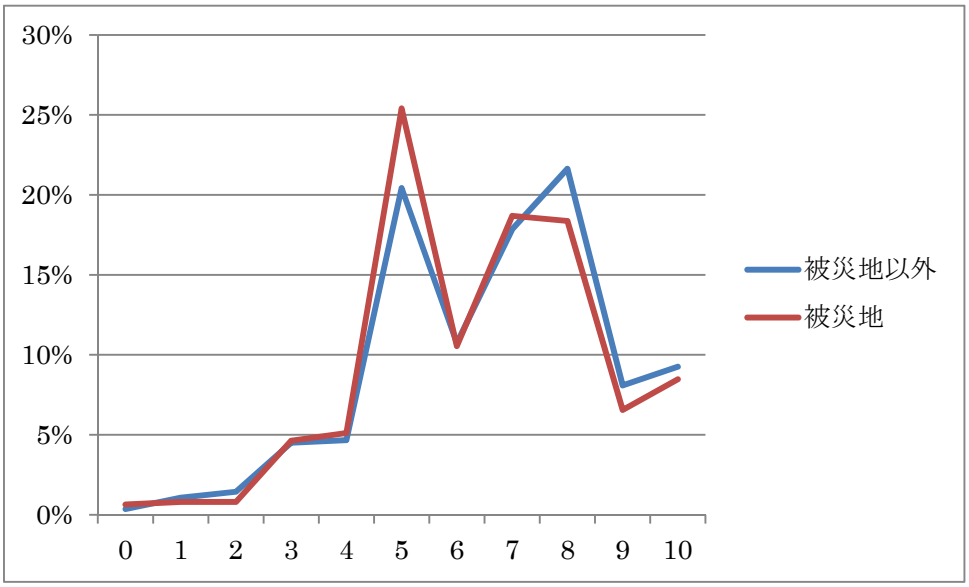
㉖現在の幸福感

被災地と被災地以外で、現在の幸福感について比較したところ、被災地は幸福度の高い層が少なく、やや低い層が多く、平均値もやや低いという結果となった（表 30）（図 32）。

表 30 被災地と被災地以外の現在の幸福感

	平均	標準偏差	回答者数
被災地以外	6.7	2.1	5816
被災地	6.5	2.0	626
全体	6.6	2.1	6442

図 32 被災地と被災地以外の現在の幸福感の分布



㉗　不安感

不安を引き起こす項目について、不安の程度を被災地と被災地以外で集計すると、過労死、孤独死、失業、治安などの項目では、大きな違いはないものの（図 33-1）、自然災害、放射能、食品安全、子どもの将来、老後の生活費の項目で、被災地における不安感が被災地以外より強いことが分かる（図 33-2）。

図 33-1 被災地と被災地以外における不安感の違い（過労死、孤独死、失業、治安）

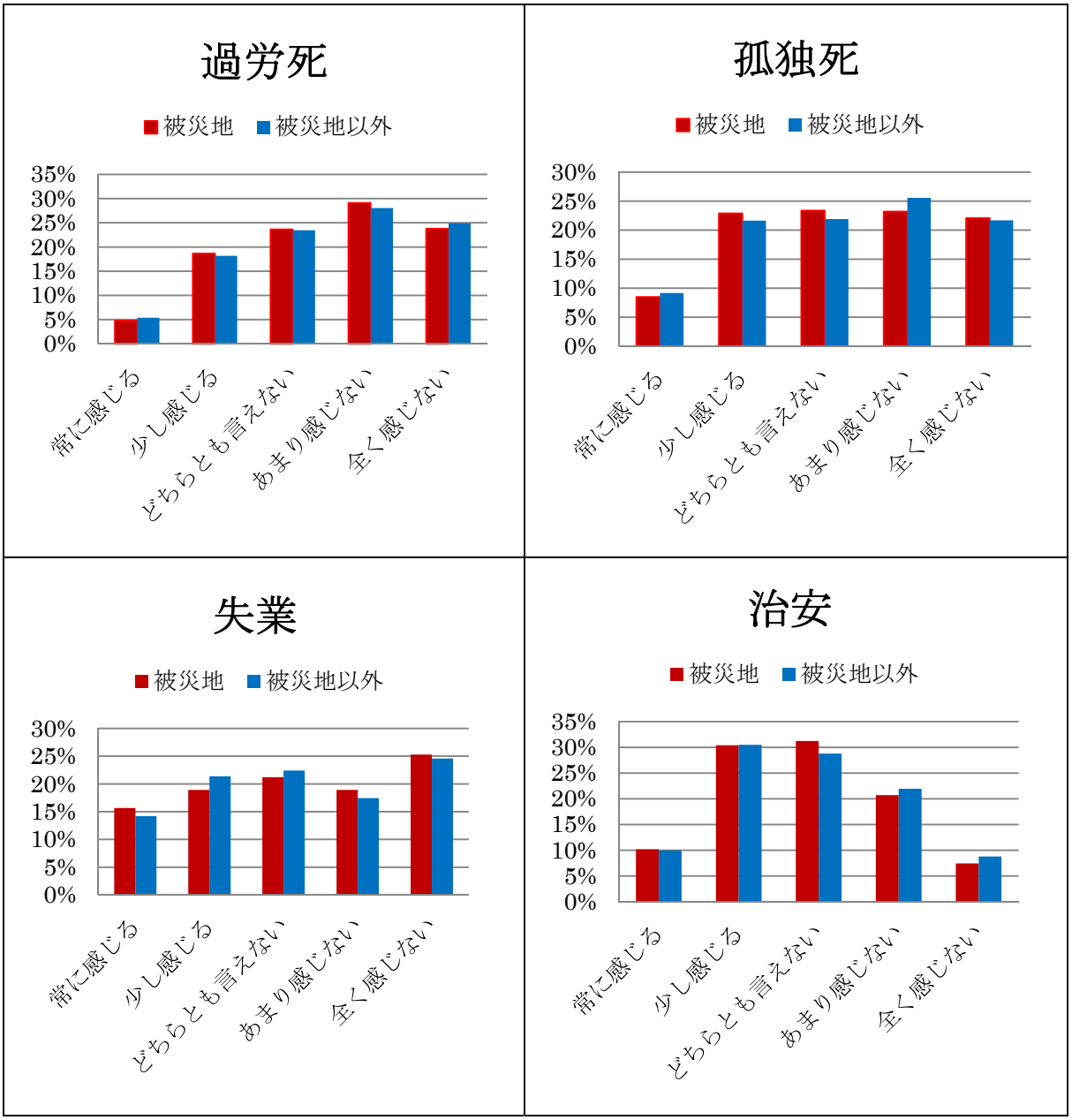
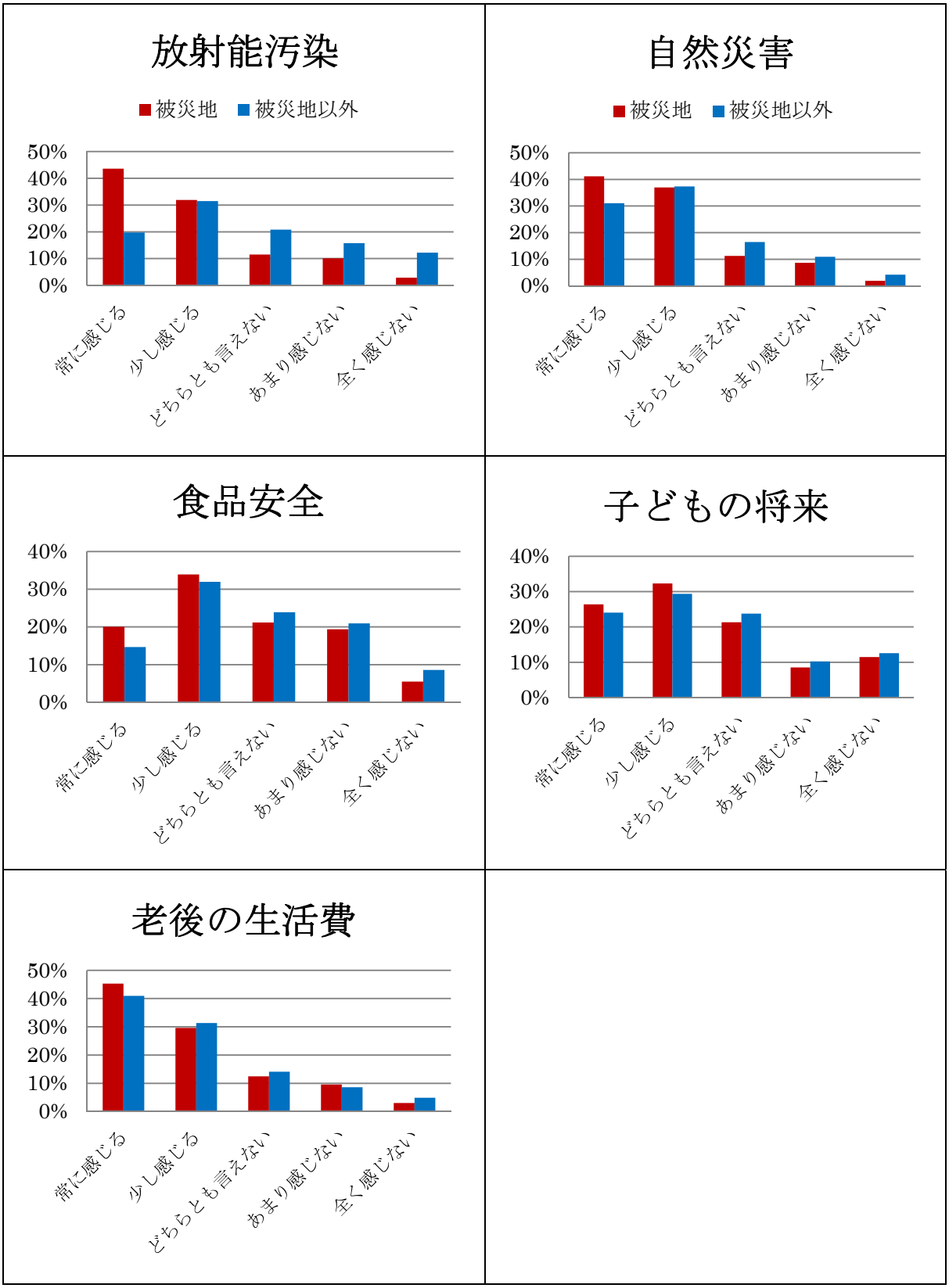


図 33-2 被災地と被災地以外における不安感の違い（放射能汚染、自然災害、食品安全、子どもの将来、老後の生活費）



別紙

単純集計値と乗率集計値の違いについて

今回の調査では、家計調査等、幸福度に関する客観的データとの比較可能性を改善することを目的に、各都道府県別に最低標本数を設定するという配分を行っている。この結果地域別の標本数は、人口の少ない都道府県がやや多くなるというバイアスが存在する。全国集計値に与える影響を見るため、現在の幸福感に関して、乗率集計（母集団の実際の構成比に合わせてデータに重み付けして行う集計、但し地域的な偏りのみ対象）を行ったところ、単純集計値と比較し、ほとんど変わらないという結果となった。本公表資料（速報）では、乗率集計値ではなく、単純集計値を公表することとする。

現在の幸福感の単純集計値と乗率集計値の違い

	単純集計	構成比(%)	乗率集計	構成比(%)
総数	6451	100.0	41585	100.0
０点（とても不幸）	25	0.4	136	0.3
１点	67	1.0	435	1.0
２点	89	1.4	627	1.5
３点	291	4.5	1781	4.3
４点	303	4.7	2097	5.0
５点	1347	20.9	8392	20.2
６点	690	10.7	4355	10.5
７点	1155	17.9	7619	18.3
８点	1373	21.3	8951	21.5
９点	511	7.9	3384	8.1
１０点（とても幸せ）	591	9.2	3750	9.0
無回答	9	0.1	58	0.1
平均（点）		6.64		6.66